

宇多津町まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン
(令和3年3月改訂版)

令和3年3月

宇多津町

目 次

はじめに	1
第1章 人口ビジョンの概要	2
1. 「人口ビジョン」とは	2
2. 第2期人口ビジョンの対象期間	2
第2章 現状に関する分析	3
1. 人口の動向について	3
(1) 人口の推移	3
(2) 年齢3区分別人口の推移	4
.....	4
(3) 5歳階級別人口比の構成	5
(4) 自然増減、社会増減の推移	6
2. 出生の動向について	9
(1) 出生率について	9
(2) 婚姻の状況	11
3. 産業について	12
4. 外国人の人口動向について	13
5. 現状分析のまとめ	14
第3章 人口の将来展望	15
1. 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計	15
2. 町の将来人口シミュレーション	18
3. 第1期人口ビジョンにおける人口の将来展望	20
4. 第2期人口ビジョンの人口の将来展望の設定	21
資料 人口推計（独自推計）	22
1. 【参考】町の人口推計（独自推計）	22
2. 【参考】地区別の人口推計（独自推計）	24
(1) 既成市街地	24
(2) 既成市街地以外	26
(3) 新宇多津都市	28
(4) 大字東分	30

はじめに

総務省の発表によると、我が国は令和 2（2020）年までの 10 年間、連続して人口は減少しており、もはや「人口減少社会」に突入して久しく、今後も我が国の人口は減少し続ける予想となっています。また、地方の人口減少と少子高齢化は着実に進行する一方で、東京等の首都圏や一部の大都市では人口が増加する等、大都市と地方における経済格差に加え人口格差も問題となってきています。

そこで、人口減少に歯止めをかけるとともに、将来にわたり活力ある地域を維持していくことを目的に、国において、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）が制定され、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成 26（2014）年 12 月に策定されました。

また、国のこうした枠組やまち・ひと・しごと創生法の趣旨を踏まえ、少子高齢化と人口減少という危機感を共有しながら、地方公共団体においても「地方人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、全国的に取組が進められるようになりました。

このような流れの中、継続は力なりという姿勢を基本に、国は令和元（2019）年 12 月 20 日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改定版）」及び「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、この 5 年間で進められてきた施策の検証を行い、地方創生の目指すべき将来や今後 5 か年の目標や施策の方向性等を定めました。

宇多津町においては、平成 27（2015）年 10 月に「宇多津町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（以下、「第 1 期人口ビジョン」という）及び「宇多津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第 1 期総合戦略」という）を策定し、本町の地域特性や実情に応じた対策と、効果的で持続可能なまちづくりに取り組んできました。

このたび、第 1 期総合戦略の期間が令和 2（2020）年度で終了することに伴い、直近のデータ等に基づく分析・予測をあらためて実施し、人口の観点から町の将来を展望する「第 2 期宇多津町まち・ひと・しごと人口ビジョン」（以下、「第 2 期人口ビジョン」という）を策定することにより、新たに策定される「第 2 期宇多津町まち・ひと・しごと総合戦略」の実効性を高める相乗効果を狙うこととします。

第1章 人口ビジョンの概要

1. 「人口ビジョン」とは

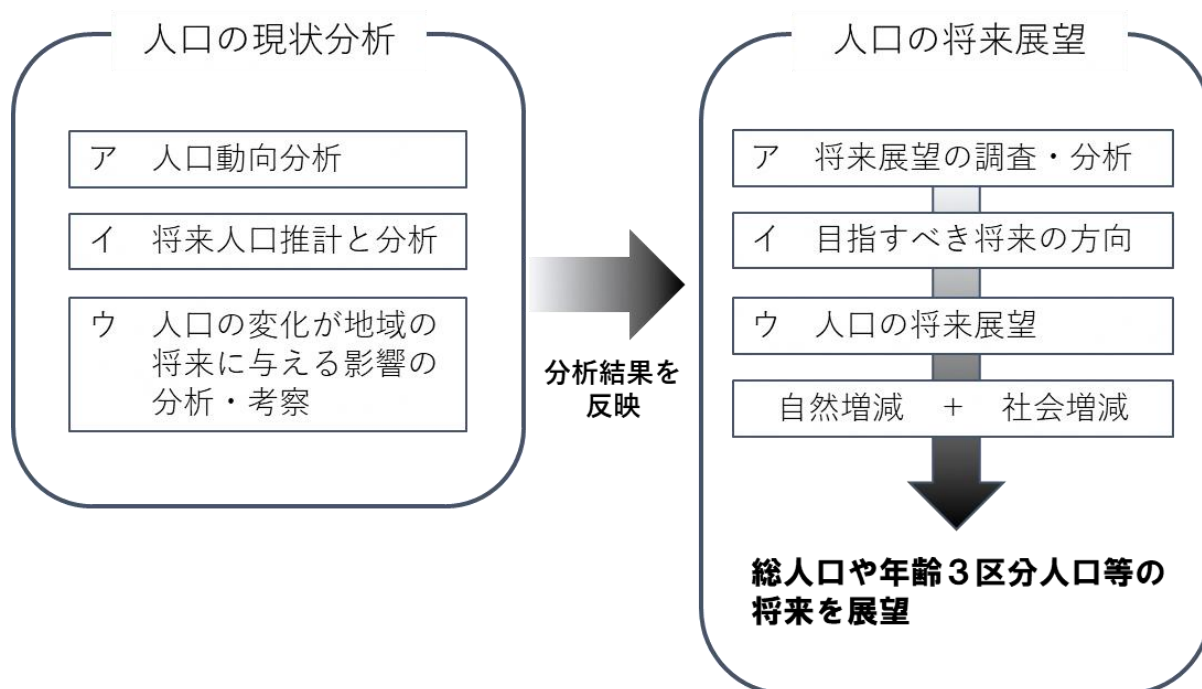
「人口ビジョン」とは、国が策定する「長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の趣旨を勘案した上で、今後予想される本町の人口の変化やその影響及び課題を分析し、人口の展望と今後目指すべき将来の方向を示すものです。

2. 第2期人口ビジョンの対象期間

平成27(2015)年策定の第1期人口ビジョンでは2060年までを対象期間としていますが、第2期人口ビジョンにおいても2060年までを対象期間とすることが妥当と判断し、今後の中長期的な人口の変化等を検討することとします。

◆第2期人口ビジョンにおける全体構成◆

- 国の「長期ビジョン」を勘案しつつ、地方公共団体それぞれの人口の現状を分析し、今後目指す方向と人口の将来展望を提示する。
- 対象期間は「長期ビジョン」の期間（2060年まで）を基本としつつ、地方公共団体の実情に応じて期間を設定しても差し支えない。



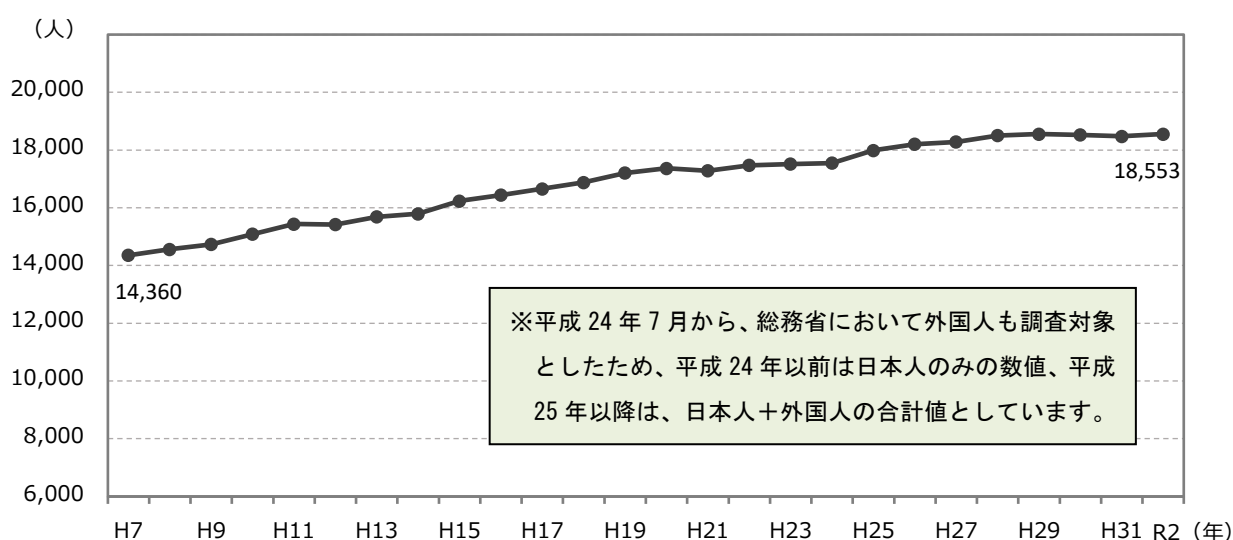
第2章 現状に関する分析

1. 人口の動向について

(1) 人口の推移

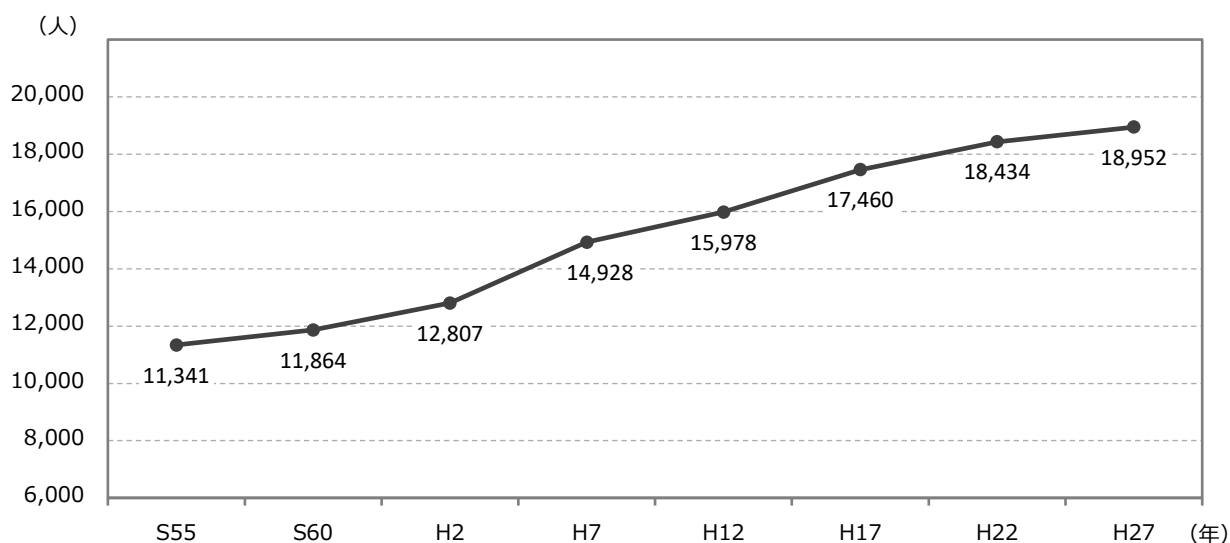
宇多津町の人口は増加傾向にあり、令和2（2020）年1月1日時点（住民基本台帳／総務省）では18,553人に達しています。

◆人口の推移（住民基本台帳）◆



資料：住民基本台帳（総務省）※H7～H25は各年3月31日時点、H26～は各年1月1日時点

◆人口の推移（国勢調査）◆

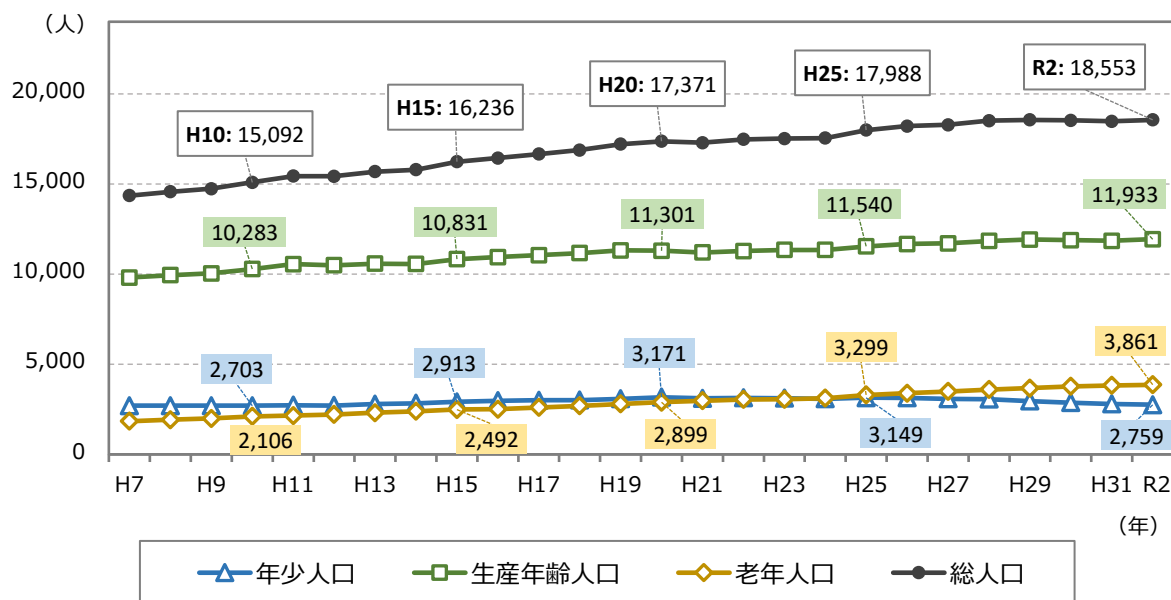


資料：国勢調査（総務省）

(2) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別の人口の推移を見ると、近年は、年少人口（15歳未満）は減少、生産年齢人口（15歳以上～65歳未満）はほぼ横ばい、老年人口（65歳以上）は増加で推移しています。

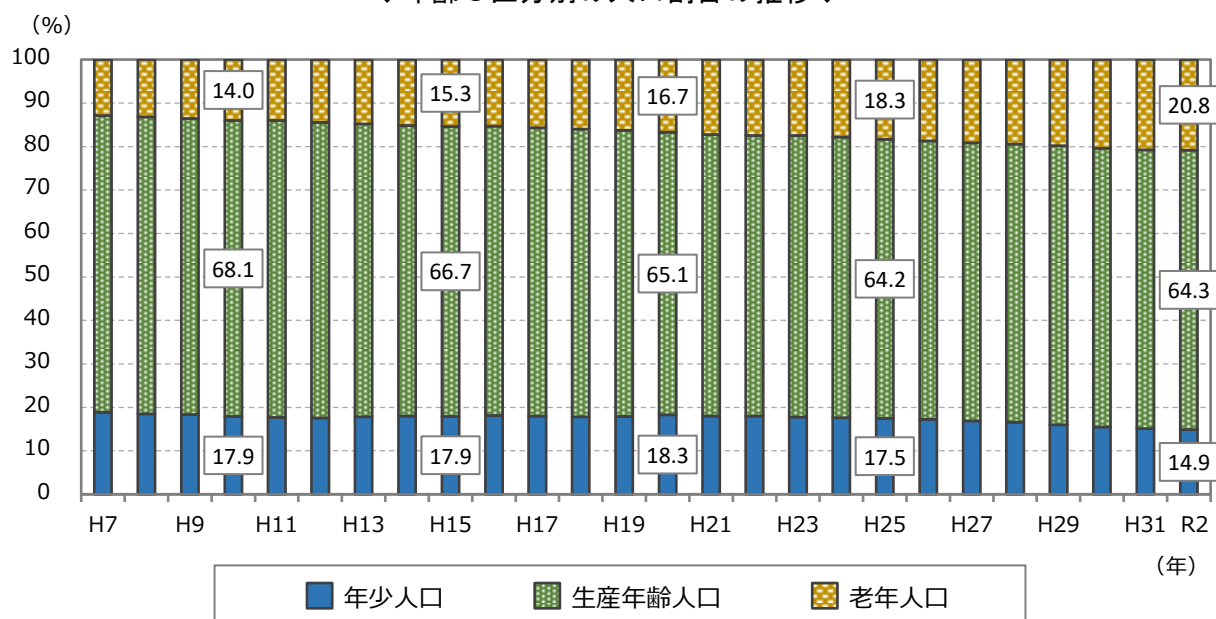
◆年齢3区分別人口の推移◆



資料：住民基本台帳（総務省）※H7～H25は各年3月31日時点、H26～は各年1月1日時点

年齢3区分別の人口割合の推移を見ると、年少人口（15歳未満）の割合は減少、生産年齢人口（15歳以上～65歳未満）の割合は横ばい、老年人口（65歳以上）の割合は増加で推移しています。

◆年齢3区分別の人口割合の推移◆

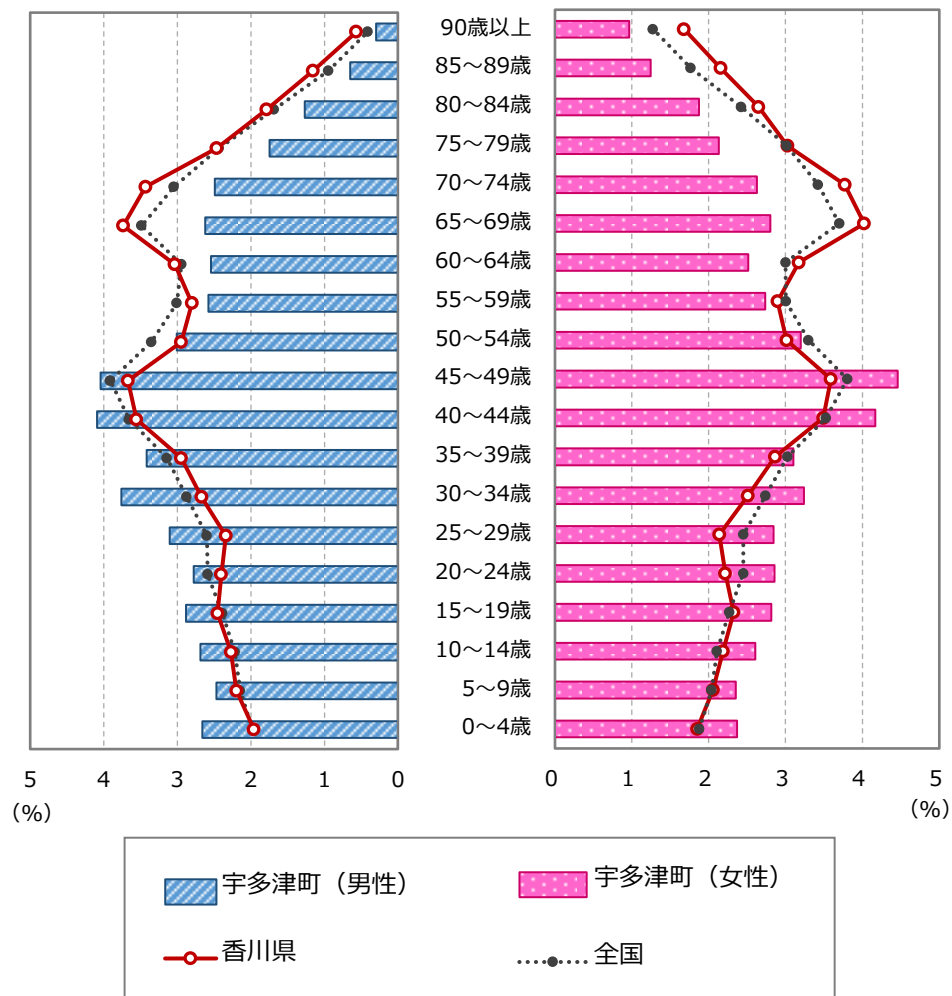


資料：住民基本台帳（総務省）※H7～H25は各年3月31日時点、H26～は各年1月1日時点

(3) 5歳階級別人口比の構成

5歳階級別人口比の構成を見ると、全国及び県と比べて、男女ともに55歳以上の割合が低く、50歳未満の割合は高くなっています。

◆ 5歳階級別人口比の構成 ◆

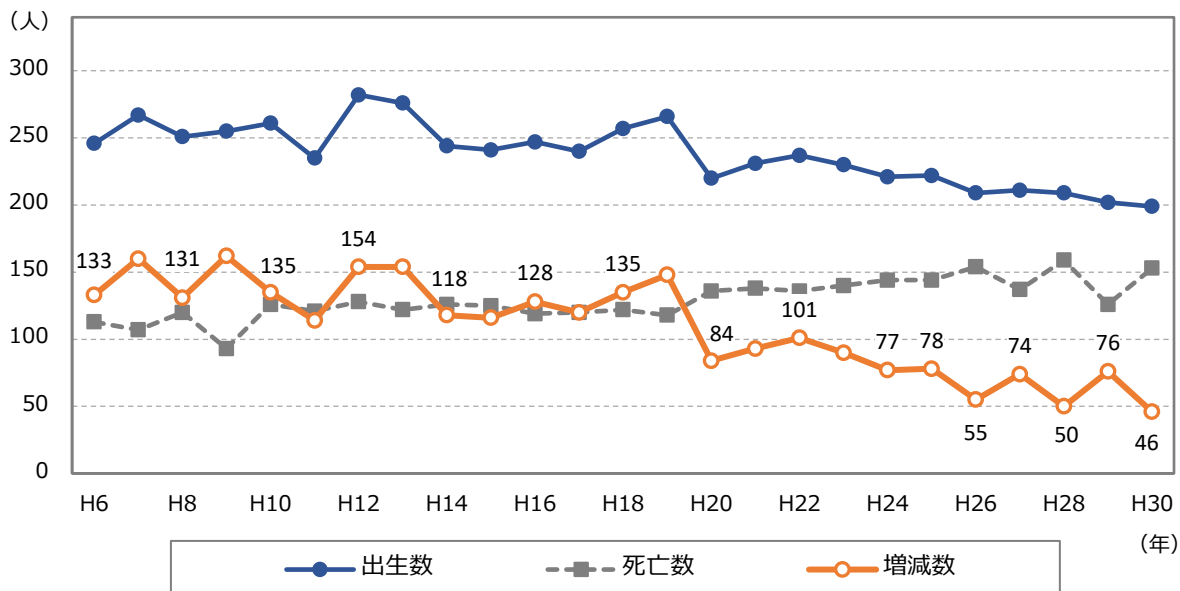


資料：住民基本台帳（総務省）※平成 31 年 1 月 1 日時点

(4) 自然増減、社会増減の推移

自然増減（出生数と死亡数の差）を見ると、増加で推移しているものの、出生数の減少と死亡数の増加により、増加数は減少傾向にあります。

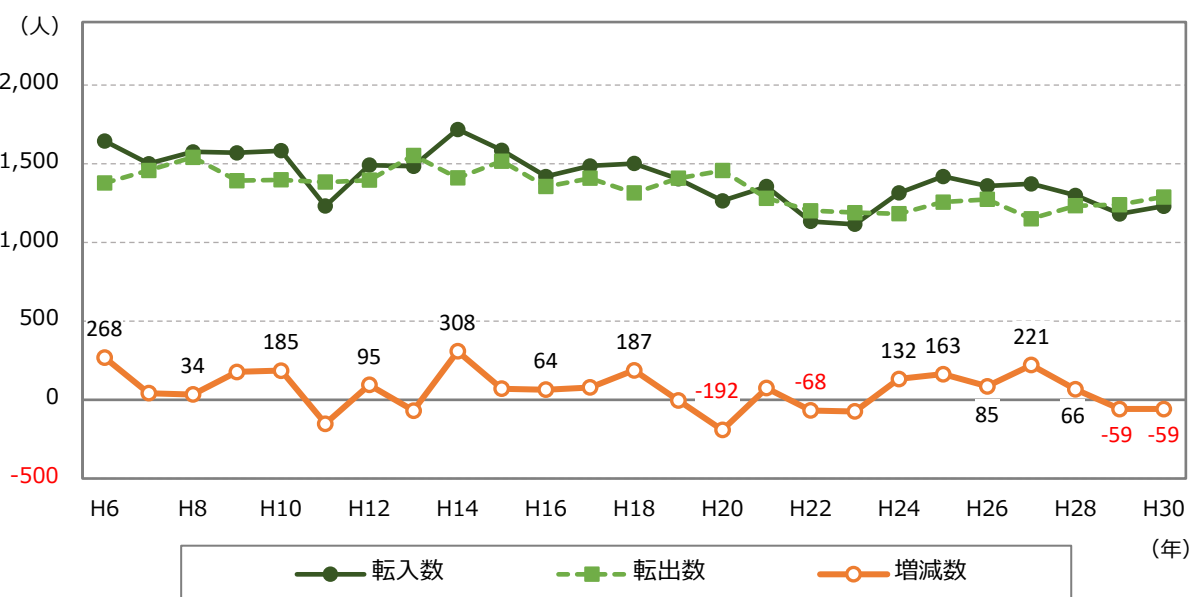
◆自然増減の推移◆



資料：住民基本台帳（総務省）※H6～H24 は各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日、H25～は各年 1 月 1 日～12 月 31 日

社会増減（転入数と転出数の差）を見ると、平成 20（2008）年以降、年により増加と減少で推移していますが、平成 29（2017）～30（2018）年は減少となっています。

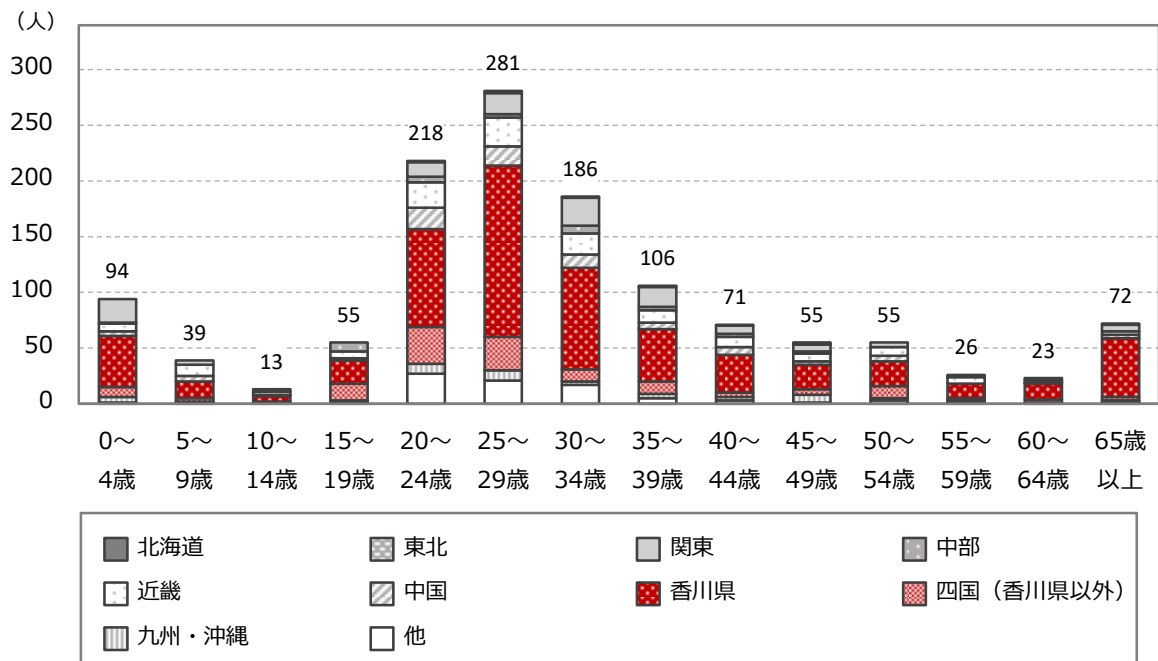
◆社会増減の推移◆



資料：住民基本台帳（総務省）※H6～H24 は各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日、H25～は各年 1 月 1 日～12 月 31 日

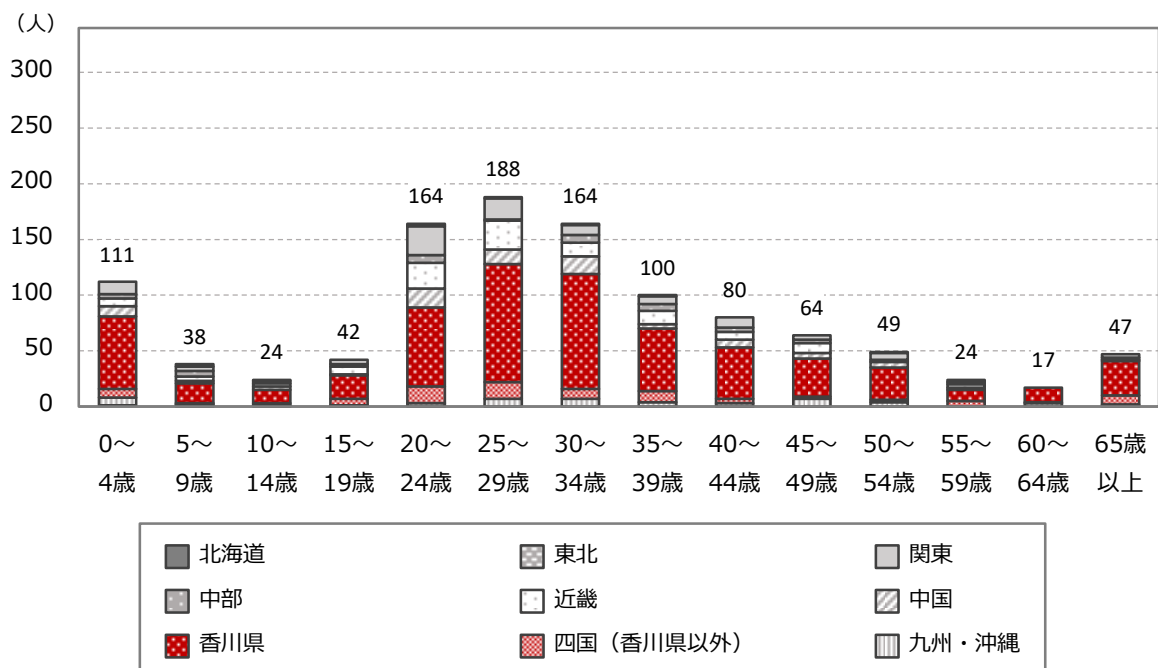
5歳年齢階級別の転入・転出の状況を見ると、0～4歳と20～44歳の転入数・転出数がそれぞれ多いことが分かります。

◆ 5歳年齢階級別転入状況 ◆



資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省） ※平成31年・令和元年

◆ 5歳年齢階級別転出状況 ◆



資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省） ※平成31年・令和元年

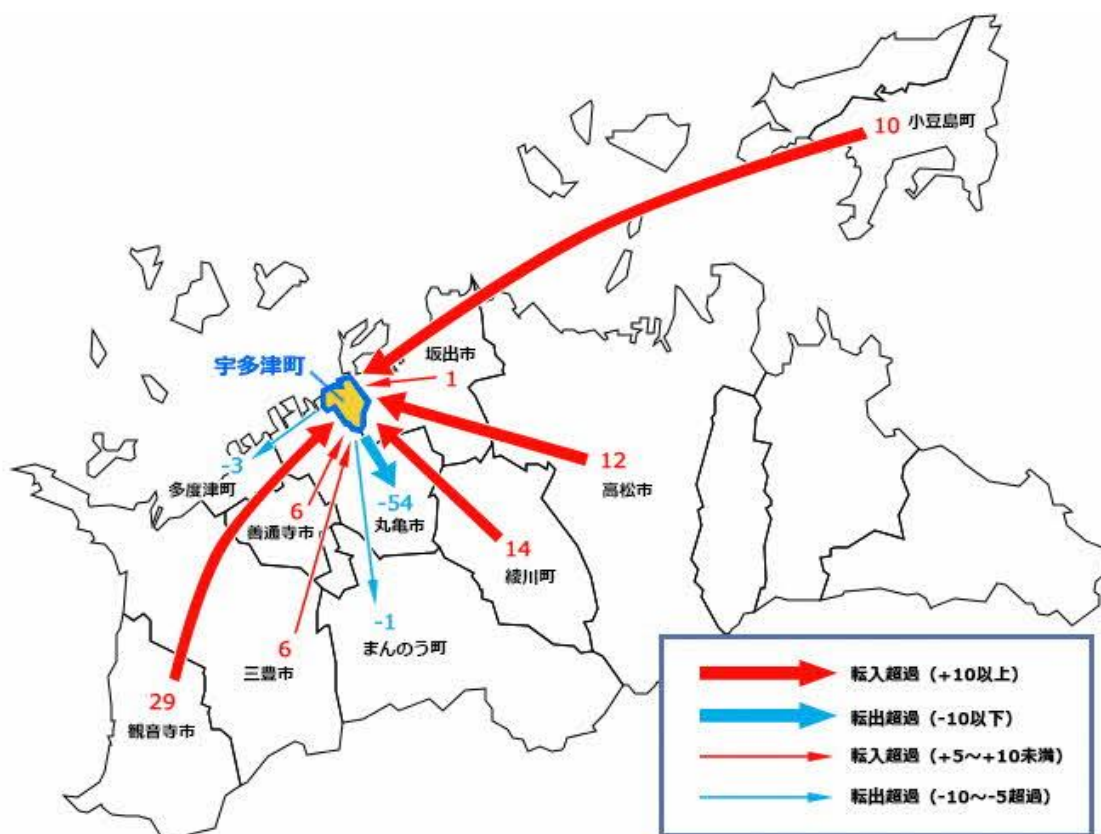
市町別移動状況を見ると、2019年の1年間では、観音寺市、綾川町、高松市等からの転入超過、丸亀市、多度津町、まんのう町への転出超過となっています。

◆市町別移動状況◆

市町名	転入	転出	差
観音寺市	29	0	29
綾川町	14	0	14
高松市	155	143	12
小豆島町	10	0	10
善通寺市	28	22	6
三豊市	29	23	6
坂出市	101	100	1
まんのう町	11	12	▲ 1
多度津町	24	27	▲ 3
丸亀市	202	256	▲ 54
その他の市町村	22	32	▲ 10

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省） ※平成31年・令和元年

◆市町別移動状況◆



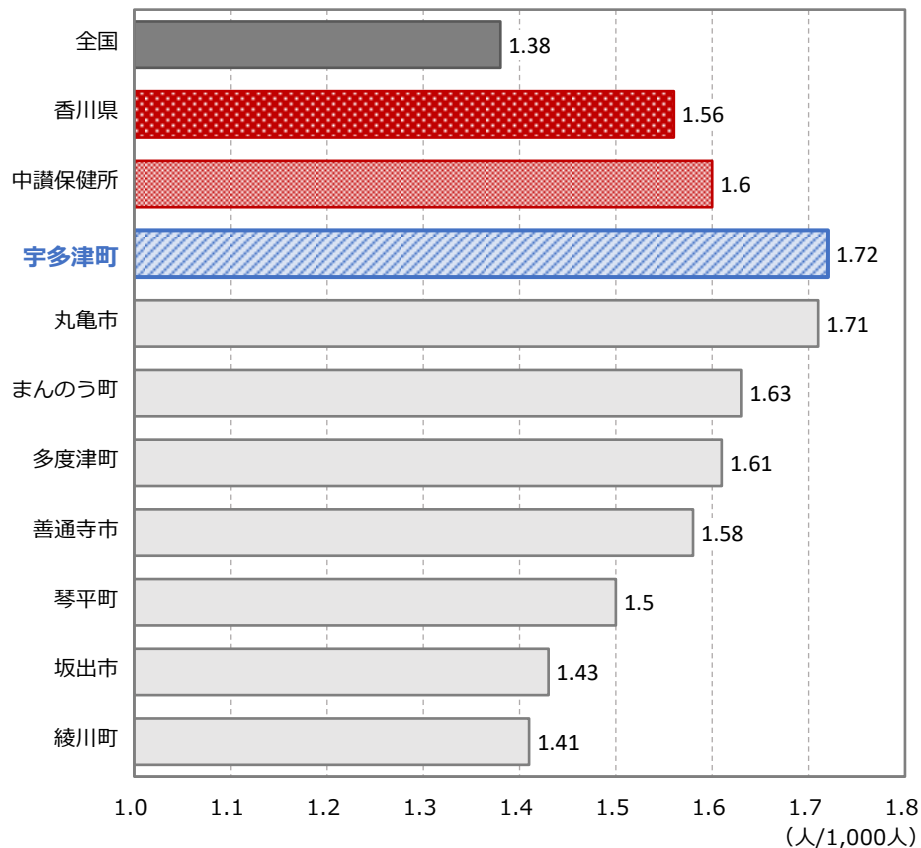
資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省） ※平成31年・令和元年

2. 出生の動向について

(1) 出生率について

合計特殊出生率（ベイズ推定値）を見ると、全国及び県よりも高く、中讃保健所管内の市町と比べても最も高くなっています。

◆合計特殊出生率（ベイズ推定値）◆



資料：人口動態統計特殊報告（総務省）※平成 20～24 年の値

◆合計特殊出生率とは？

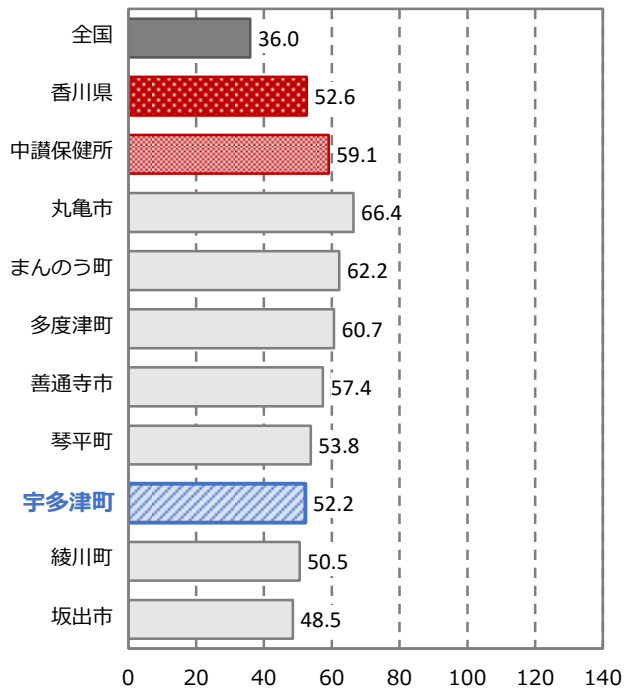
女性が出産可能とされる 15 歳から 49 歳までに産む子どもの人数の平均（女性 1 人あたり）を示す数値。

◆ベイズ推定値とは？

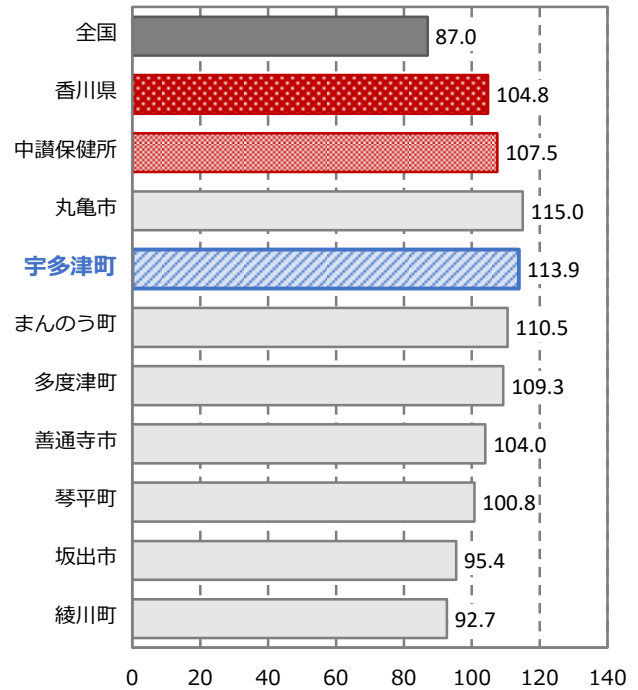
市町村等の標準化死亡比や合計特殊出生率の算出において、地域間比較や経年比較に耐えうるより安定性の高い指標を求めるため、ベイズ統計学の手法を用いることにより、出現数の少なさに起因する偶然変動の影響を減少させた推定値。

年齢階級別出生率（女性人口千対）を見ると、25～39 歳において全国及び県よりも高くなっています。

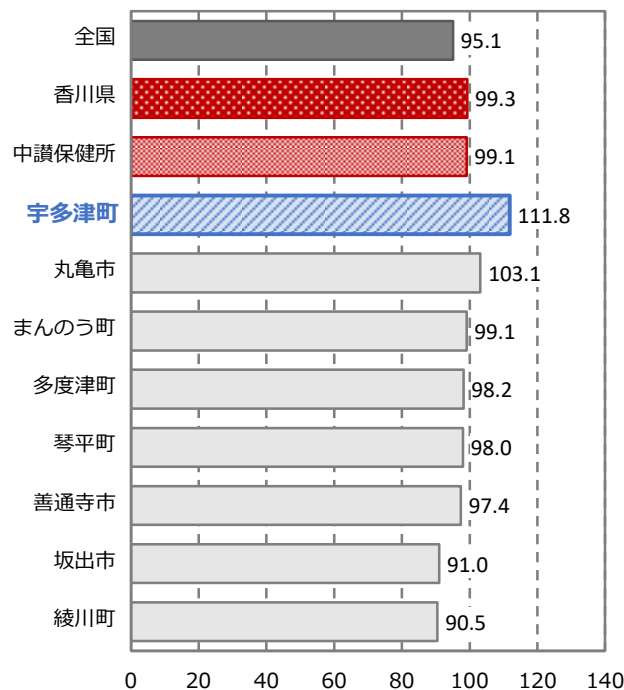
■ 年齢階級別出生率（20～24 歳）



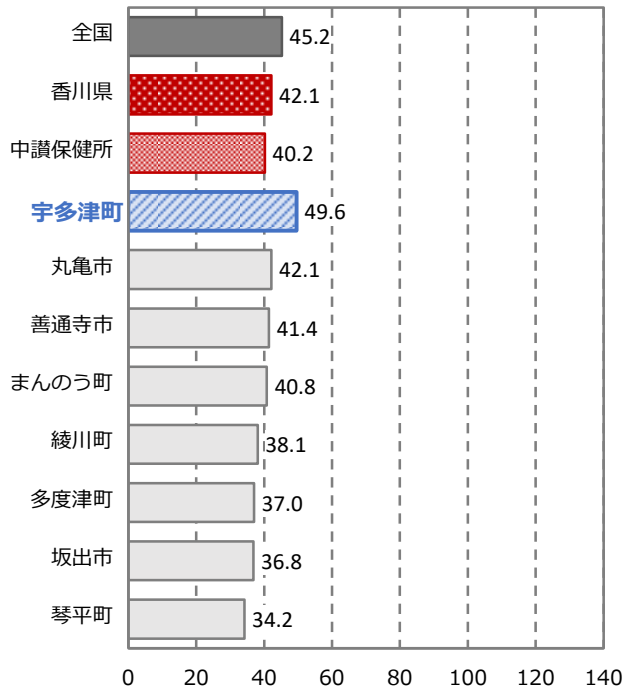
■ 年齢階級別出生率（25～29 歳）



■ 年齢階級別出生率（30～34 歳）



■ 年齢階級別出生率（35～39 歳）

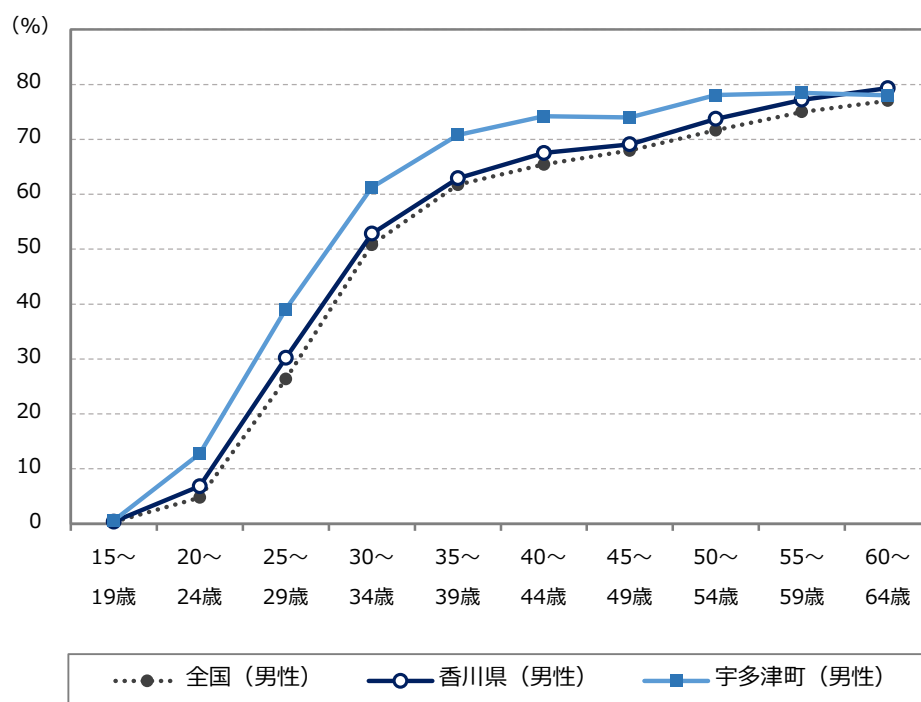


資料：人口動態統計特殊報告（総務省）※H20～H24 年／年齢階級別出生率（女性人口千対）

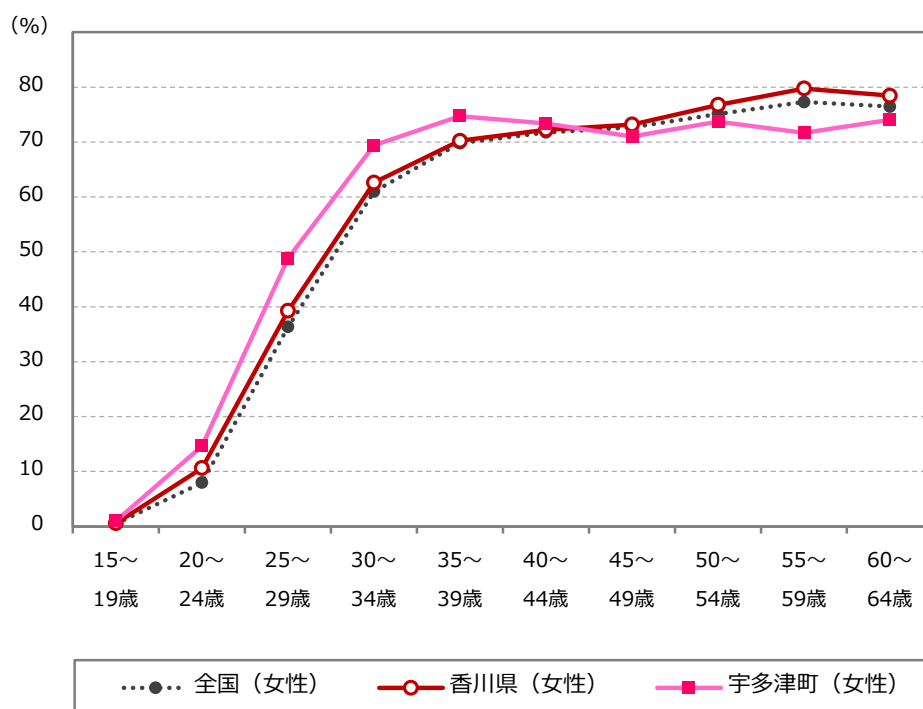
(2) 婚姻の状況

婚姻の状況を有配偶率で見ると、全国及び県と比べて、男性では20歳以上、女性では20～44歳の有配偶率が高くなっています。

◆有配偶率（男性）◆



◆有配偶率（女性）◆



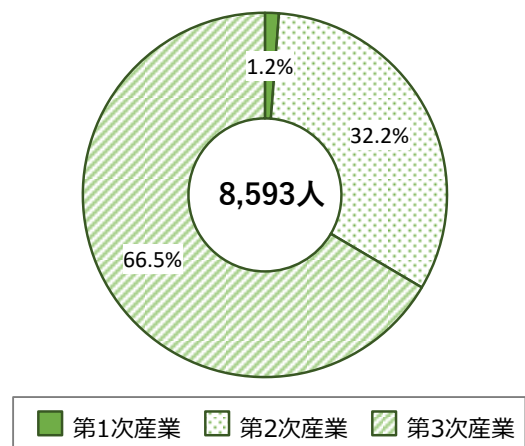
資料：国勢調査（総務省）平成27年

3. 産業について

産業別就業人口を見ると、第3次産業従事者が最も多く、第1次産業は少なくなっています。

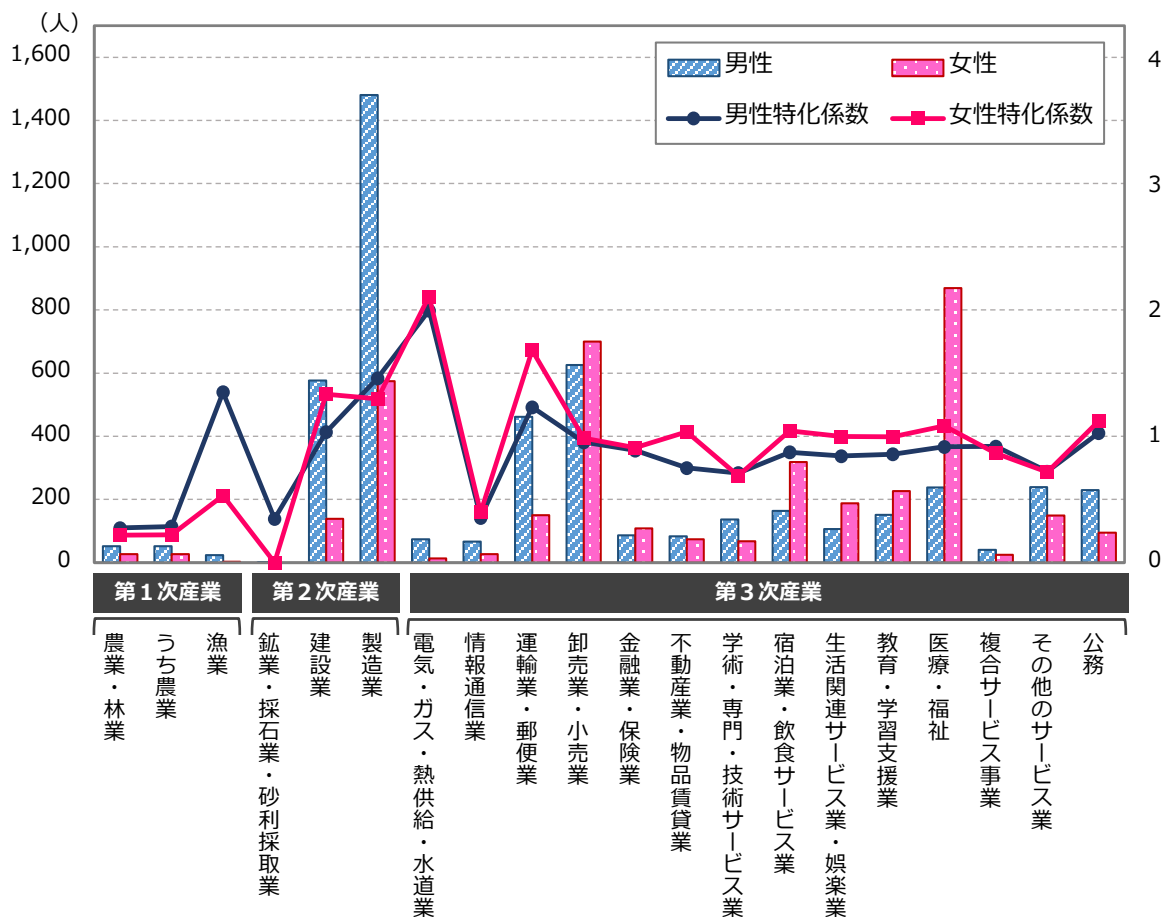
男女別産業人口を見ると、男性では「製造業」が最も多く、次いで、「卸売業・小売業」、「建設業」の順となっており、女性では「医療・福祉」が最も多く、次いで、「卸売業・小売業」、「製造業」の順となっています。

◆産業別就業人口◆



資料：国勢調査（総務省）平成 27 年

◆男女別産業人口◆



資料：国勢調査（総務省）平成 27 年

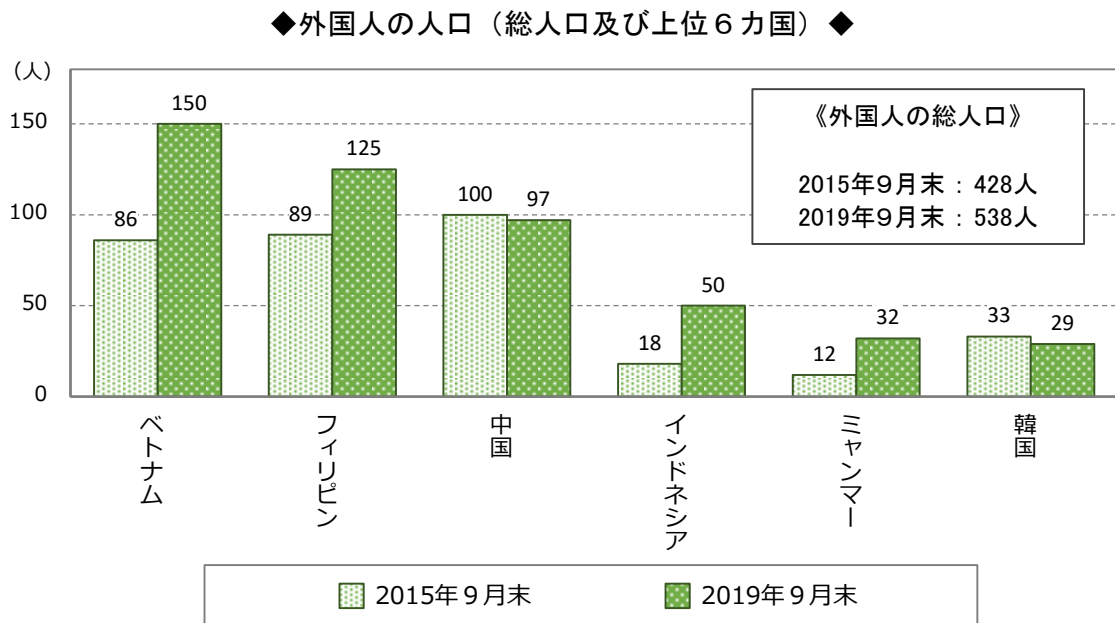
※特化係数とは？

「町のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率」であり、町の強み・弱みを見るときに用いる。特化係数が1を上回ると強く1を下回ると弱いと判定する。

4. 外国人の人口動向について

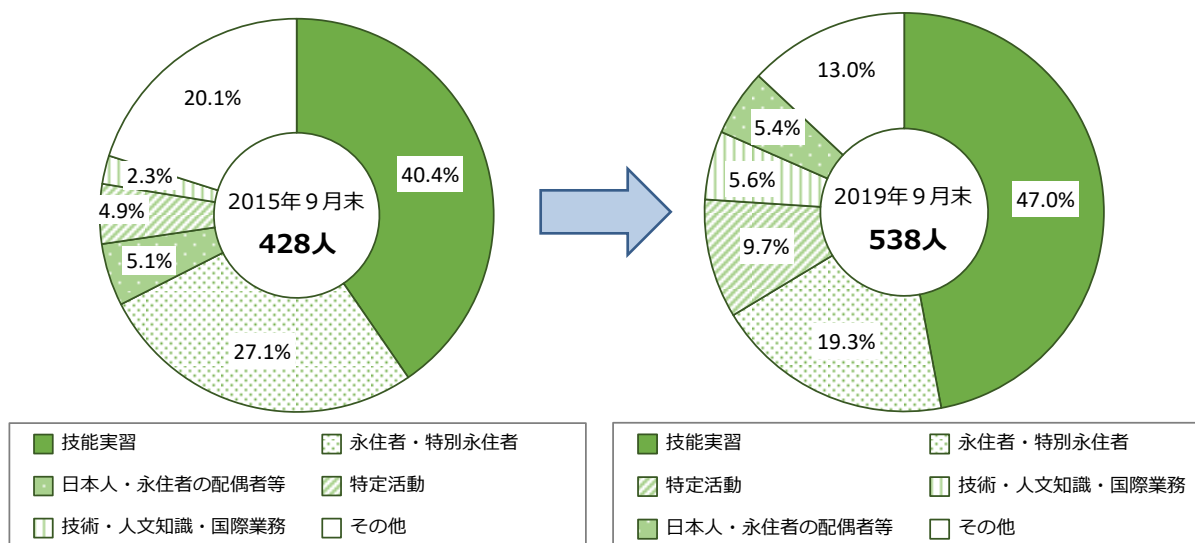
本町における外国人の総人口を見ると、平成 27（2015）年 9 月末時点では 428 人でしたが、令和元（2019）年 9 月末では 538 人と増加しており、国籍別では、ベトナム、フィリピン、中国の方が多くなっています。

在留資格の内訳を見ると、「技能実習」の割合が最も高く、次いで、「永住者・特別永住者」、「特定活動」の順となっています。



資料：宇多津町住民生活課

◆在留資格の内訳（2015 年⇒2019 年）◆



資料：宇多津町住民生活課

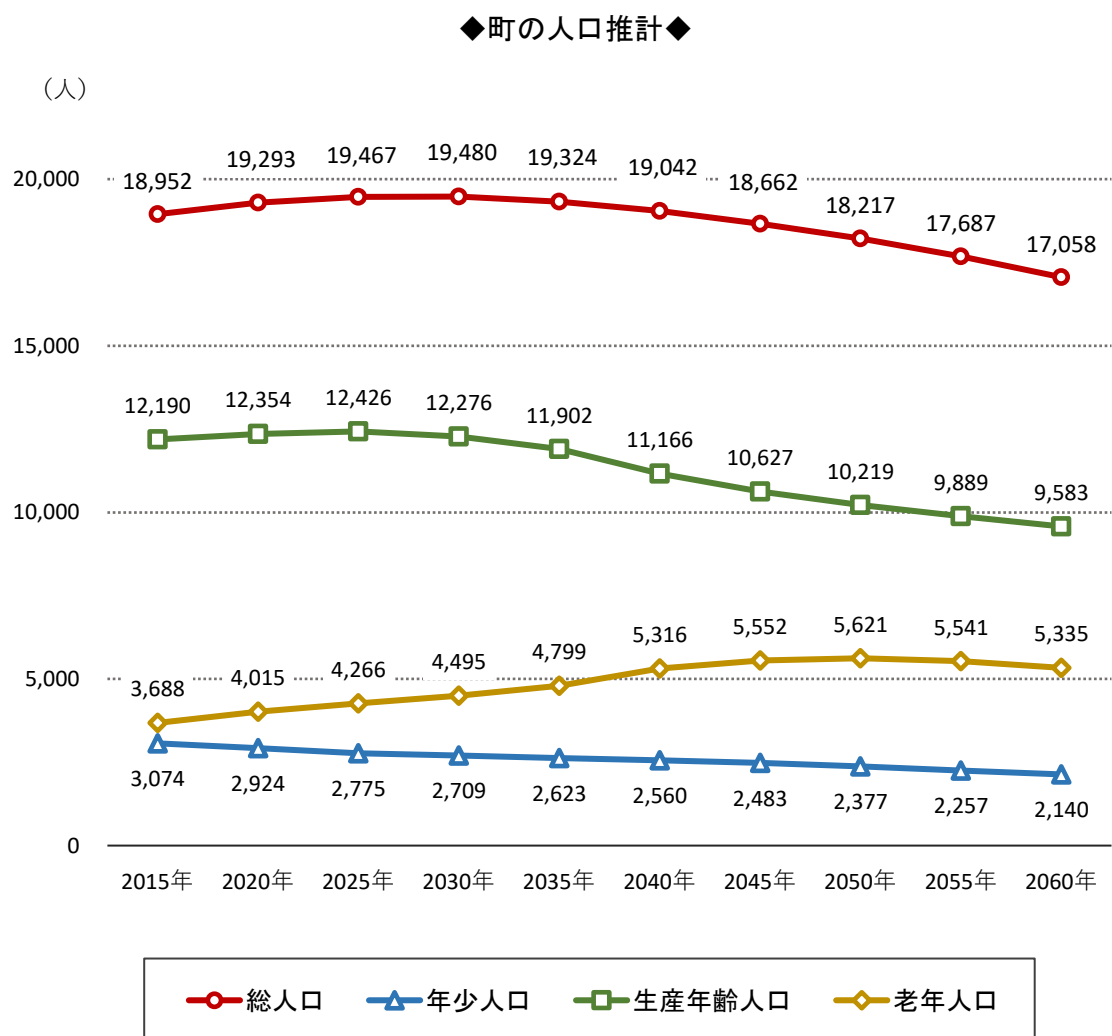
5. 現状分析のまとめ

- 人口は増加傾向にありますが、少子高齢化は進みつつあります。令和7（2025）年には団塊の世代の全ての方が後期高齢者となるため、高齢福祉施策の充実が求められると同時に、子育て世代及び子どもの人口増に向けた様々な施策を展開することが必要な状況です。
- 自然増減については、現在は出生数が死亡数を上回って推移しているものの、出生数の減少と高齢化による死亡数の増加により、自然増は減少傾向にあります。また、社会増減については、年によって差があり、増減を繰り返しています。
- 出生率は国や県と比べて高く、有配偶率も子育て世代において高い割合となっています。引き続き、子育て支援に関する施策の更なる充実と、子どもを生み育てやすい住環境の整備により、出生数の維持・増加に努める必要があります。
- 就業人口は、第3次産業が7割弱、第2次産業が3割程度となっており、第1次産業はわずかとなっています。就業人口の特性を考慮して、町の産業の強みと弱みを生かしたまちづくりを推進する必要があります。
- 外国人の人口は増加傾向にあるため、町民や企業に対する多種多様な国籍や文化・風習への理解と、就労や生活環境への配慮、行政サービスや様々な支援を提供する際の適切な配慮等が求められる状況です。

第3章 人口の将来展望

1. 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）が、平成 27（2015）年国勢調査の人口を基準に平成 30（2018）年 3 月に行った推計結果によると、令和 12（2030）年頃まで緩やかに増加し、以後減少に転じる予測となっています。

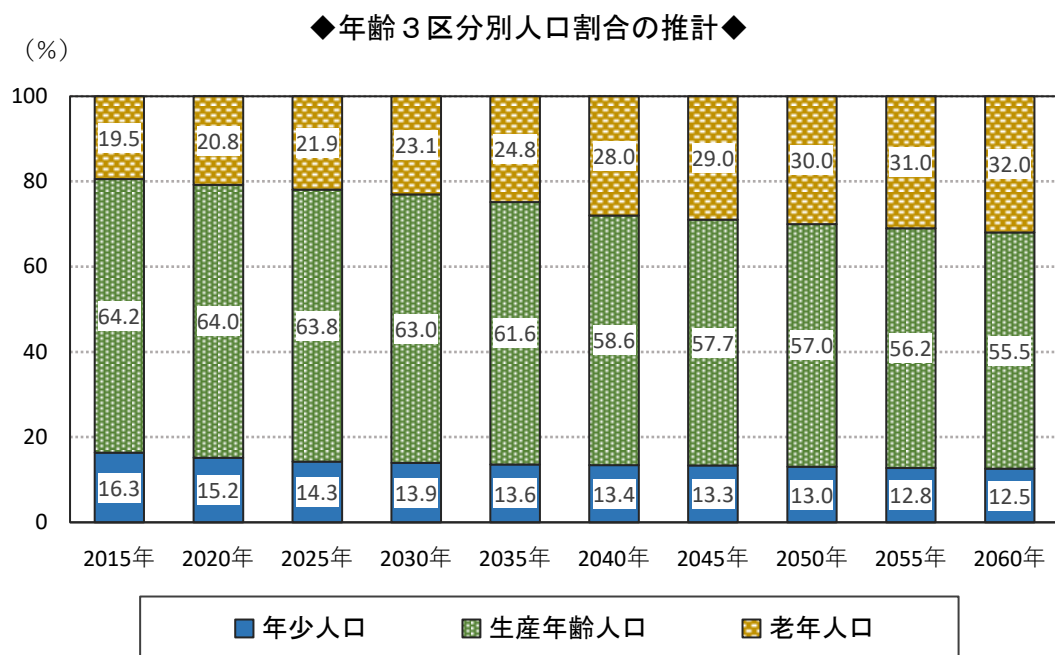


資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

◆国立社会保障・人口問題研究所（社人研）とは？

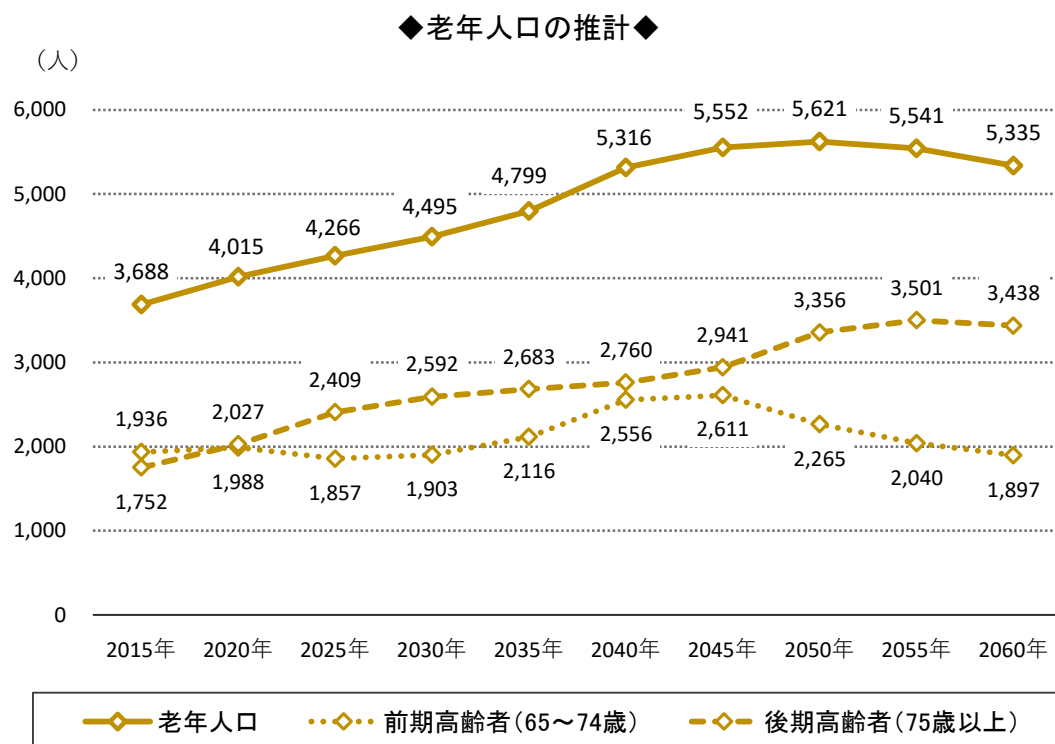
厚生労働省に所属する国立の研究機関であり、平成 8（1996）年に、厚生省人口問題研究所と特殊法人社会保障研究所との統合によって誕生した。人口や世帯の動向を捉えるとともに、内外の社会保障政策や制度についての研究を行っている。

年齢3区分別人口割合の推計を見ると、徐々に少子高齢化が進む予測となっており、令和22（2040）年には高齢化率 28.0%、令和 42（2060）年には高齢化率 32.0%となる見込みです。



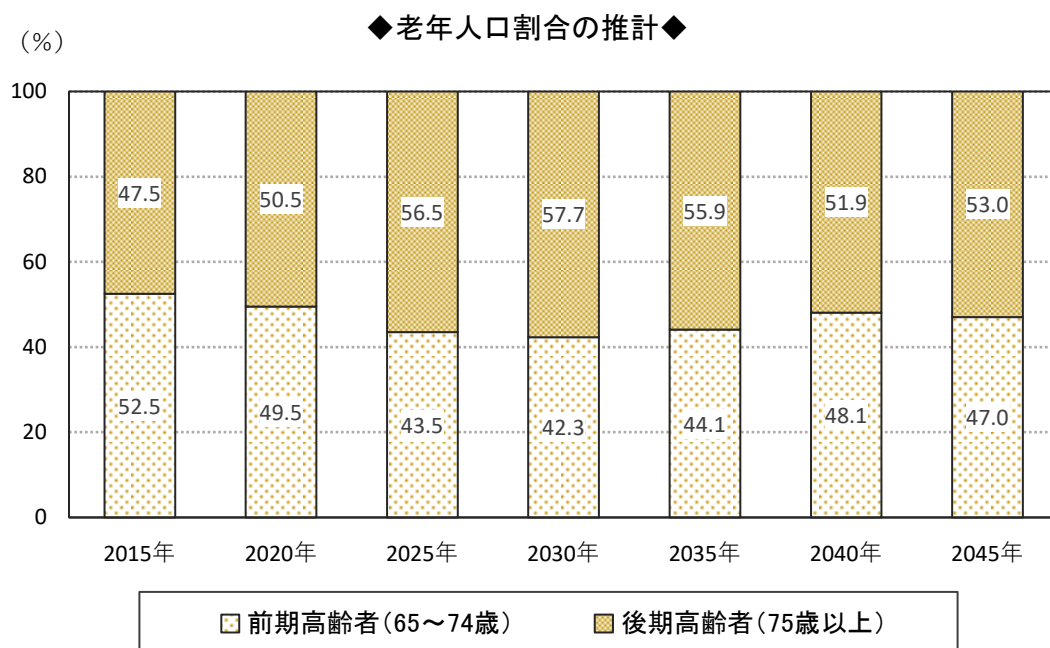
資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

老年人口の推計を見ると、高齢者人口のピークは2050年頃と予測されています。



資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

老年人口割合の推計を見ると、令和 2（2020）年には後期高齢者の割合が 5 割を超え、その後は後期高齢者の割合が高い状態が続くことが予測されています。



資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

《参考：国立社会保障・人口問題研究所による人口推計の概要》

2015 年国勢調査人口を基準人口とし、2010 年から 2015 年の人口の動向を勘案し将来の人口を推計しています。

■出生に関する仮定

原則として、2015 年の全国の子ども女性比（15 歳～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比）と子ども女性比との比をとり、その比が 2045 年までほぼ一定と仮定。

■死亡に関する仮定

原則として、55～59 歳→60～64 歳以下では、全国と都道府県の 2010 年→2015 年の生残率の比から算出される生残率を自治体に対して一律に適用。60～64 歳→65～69 歳以上では、前述に加えて、都道府県と市町村の 2005 年→2010 年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。

■移動に関する仮定

原則として、2010 年→2015 年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、2020 年→2025 年までに 2 分の 1 まで縮小し、その後は 2040 年→2045 年まで一定と仮定。

■ 宇多津町の合計特殊出生率の設定値（社人研準拠）

年（西暦）	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研準拠	1.72	1.67	1.66	1.66	1.67	1.67	1.68	1.68	1.68	1.68

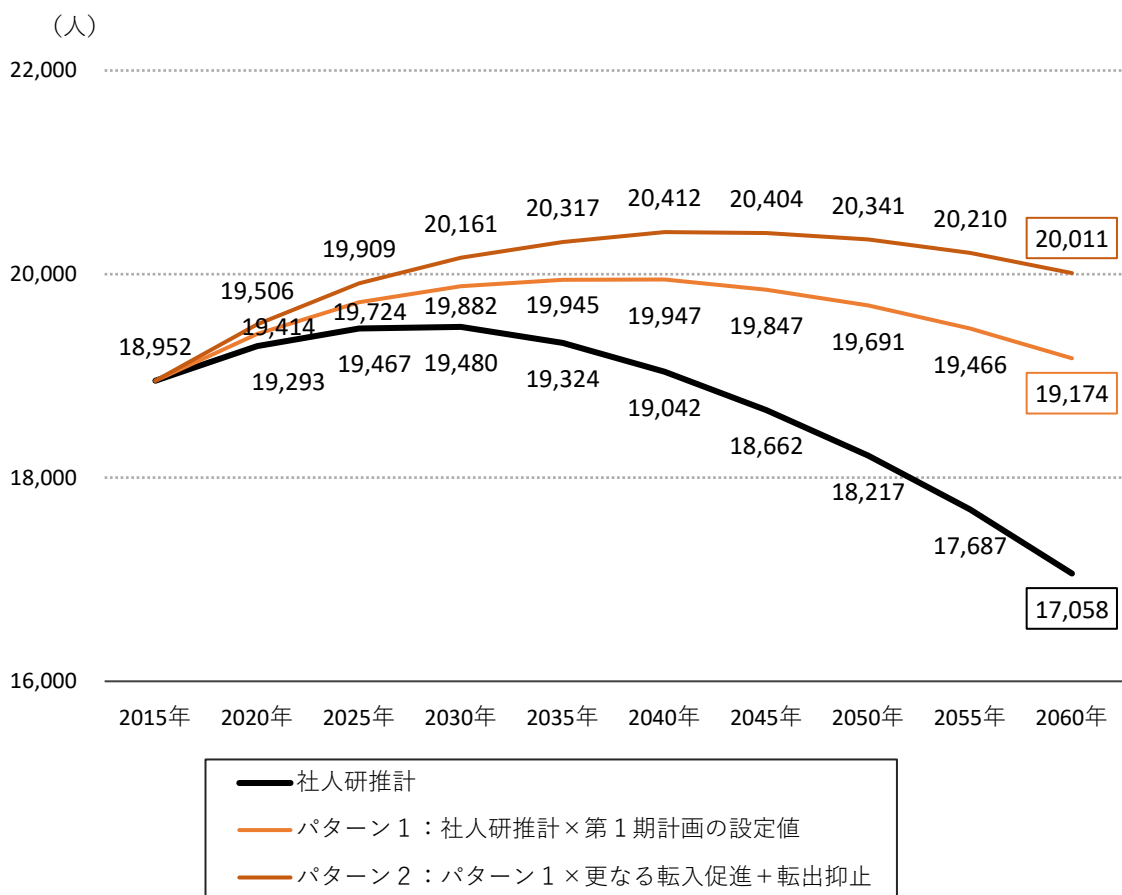
2. 町の将来人口シミュレーション

先に社人研による推計を見ましたが、町の将来人口シミュレーションを実施する際、今後の施策展開とその効果による次の点を考慮しました。

- 社会増減の増加（転入促進、転出抑止）を見込むこと。
- 自然増減の増加（合計特殊出生率の上昇）を見込むこと。

上記を考慮したうえで、社人研による推計をもとに国提供のワークシートを用いて、次の通り、将来人口のシミュレーションを行いました。

◆将来人口シミュレーション◆



※シミュレーション設定の詳細については、次ページのとおりです。

■ 社会増減に関する設定

◎社人研推計

P.17 で示したとおりです。

◎パターン1（社人研推計×第1期人口ビジョンの設定値）

第1期人口ビジョンでは、以下のように社会増減に関する設定を行っています。

施策対象世代	施策効果
①若年層（20代）	転入増加（毎年5人程度増加）
②子育て世代（30代）女性 0～10歳代前半までの子ども	転出抑制（それぞれ毎年5人程度抑制）

◎パターン2（パターン1×更なる転入促進+転出抑止）

パターン2では、以下のように社会増減に関する設定を行いました。

施策対象世代	施策効果
①若年層（20代）	転入増加（毎年11人程度増加）
②子育て世代（30～40代）	転出抑制（毎年11人程度抑制）
③0～10歳代前半までの子ども	転出抑制（毎年11人程度抑制）

■ 自然増減に関する設定

◎社人研推計

P.17 で示したとおりです。

◎パターン1（社人研推計×第1期人口ビジョンの設定値）

第1期人口ビジョンでは、以下のように自然増減に関する設定を行っています。

施策対象世代	施策効果
③15～49歳女性	合計特殊出生率向上 (2030年までに1.8、2040年までに2.07を達成)

◎パターン2（パターン1×更なる転入促進+転出抑止）

パターン2では、パターン1と同様の自然増減に関する設定を行いました。

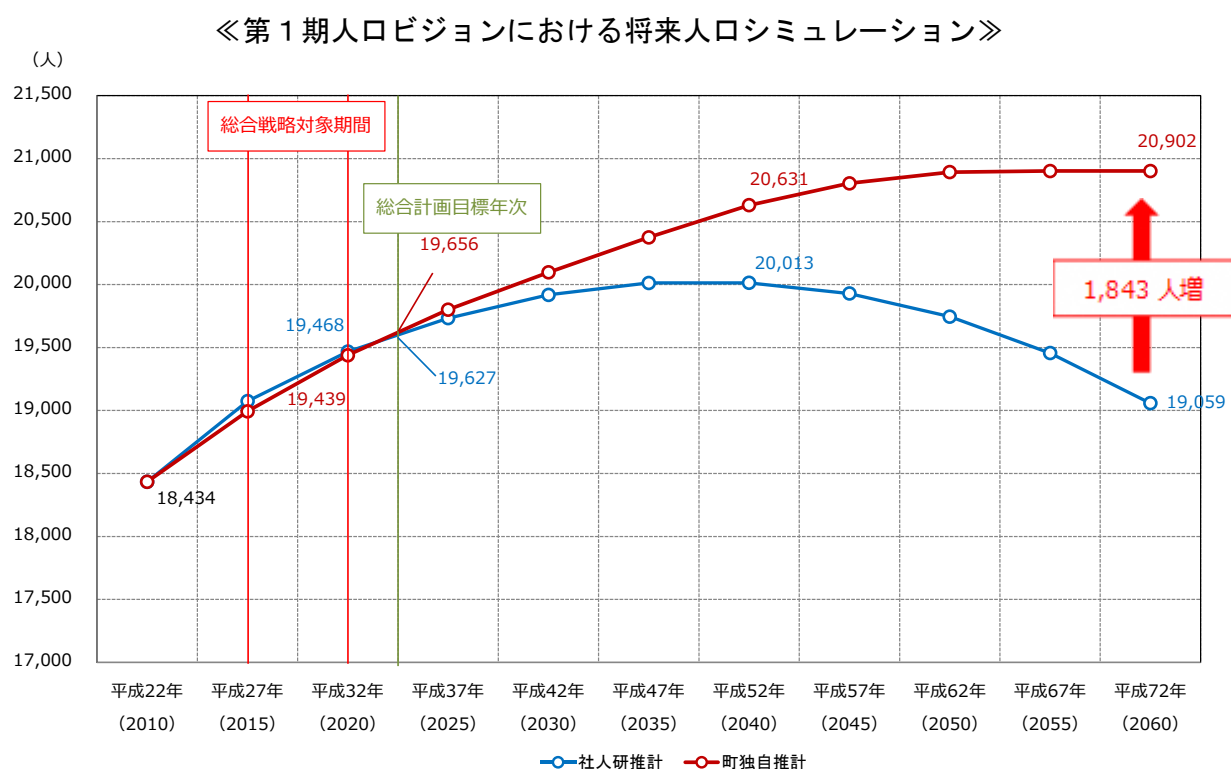
■シミュレーションのための合計特殊出生率の設定値

年（西暦）	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研準拠の出生率	1.72	1.67	1.66	1.66	1.67	1.67	1.68	1.68	1.68	1.68
出生率上昇の見込み値	1.71	1.75	1.80	1.85	1.90	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

※パターン1及びパターン2は「出生率上昇の見込み値」で設定。

3. 第1期人口ビジョンにおける人口の将来展望

第1期人口ビジョンでは様々な観点からシミュレーションを行い、その結果を最終的に下のグラフで取りまとめています。これによると、令和42（2060）年に20,902人を維持することを将来展望に掲げていることが分かります。



第1期人口ビジョンでは、出生率と社会移動を改善させることにより、令和42（2060）年の人口を20,902人と見込むとともに、社人研推計準拠と比べて、約1,800人の人口減少を抑制する効果を見込んでいます。しかし、第1期人口ビジョン策定時の社人研準拠推計では令和42（2060）年で19,059人と予測されていたのが、最新の社人研準拠推計では令和42（2060）年で17,058人と約2,000人の減少という予測に変わっています。

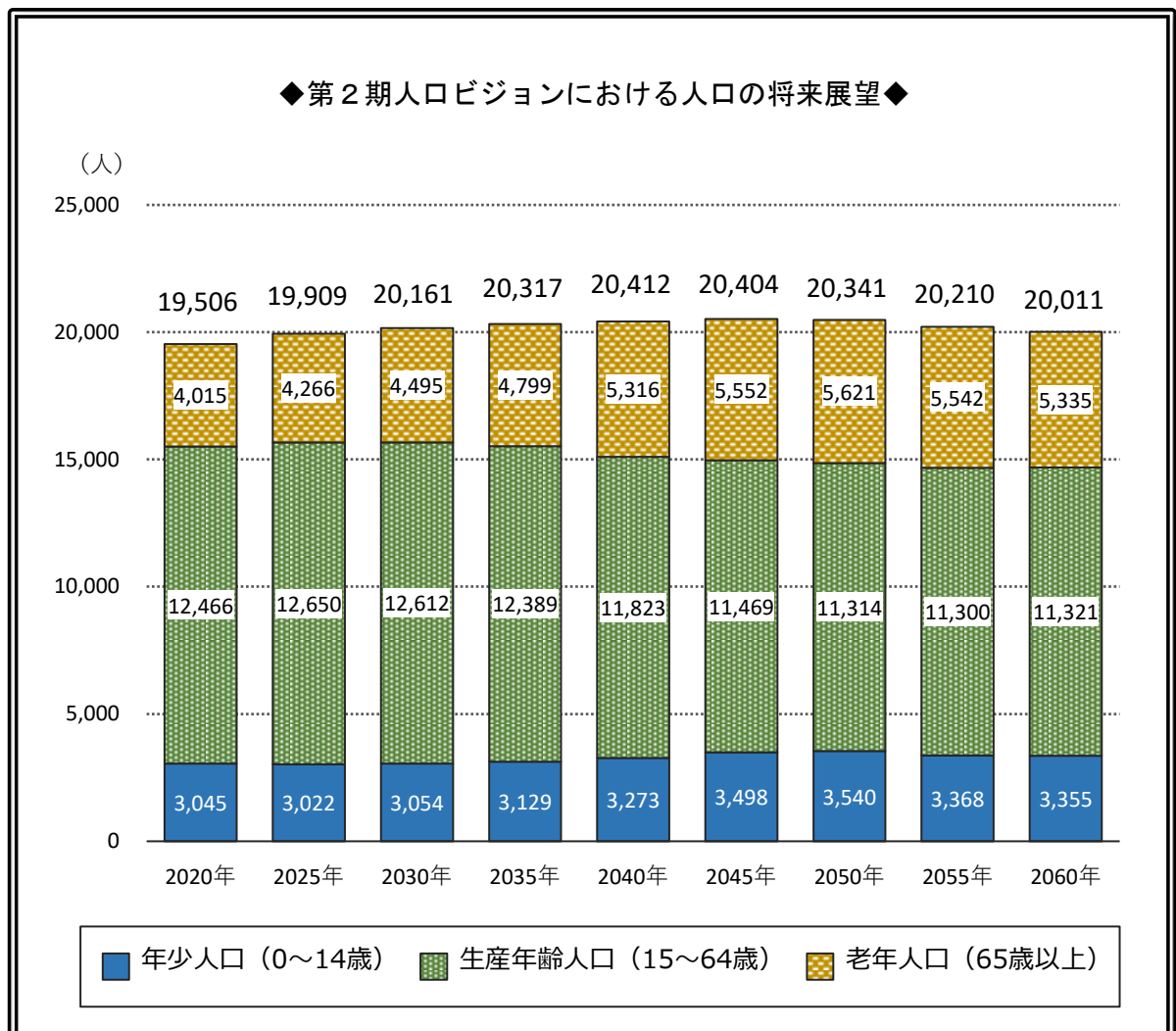
4. 第2期人口ビジョンの人口の将来展望の設定

これまでに見た町の現状や人口推計等を勘案した結果、「2. 町の将来人口シミュレーション」における「パターン2（パターン1×更なる転入促進+転出抑止）」の値を将来人口と設定することが妥当であると考え、第2期人口ビジョンにおける人口の将来展望を設定します。

人口の将来展望の設定

- ◆ 第2期人口ビジョン対象期間の最終年である **2060年の人口を20,000人程度**と展望する。
- ◆ そのため、子育て支援の充実や若者世代の移住・定住促進等に寄与する様々な施策を展開することにより、**2030年以降、20,000人以上の人口を維持**することを目標とする。

上記、人口の将来展望を反映した人口推計は以下の通りです。



資料 人口推計（独自推計）

1. 【参考】町の人口推計（独自推計）

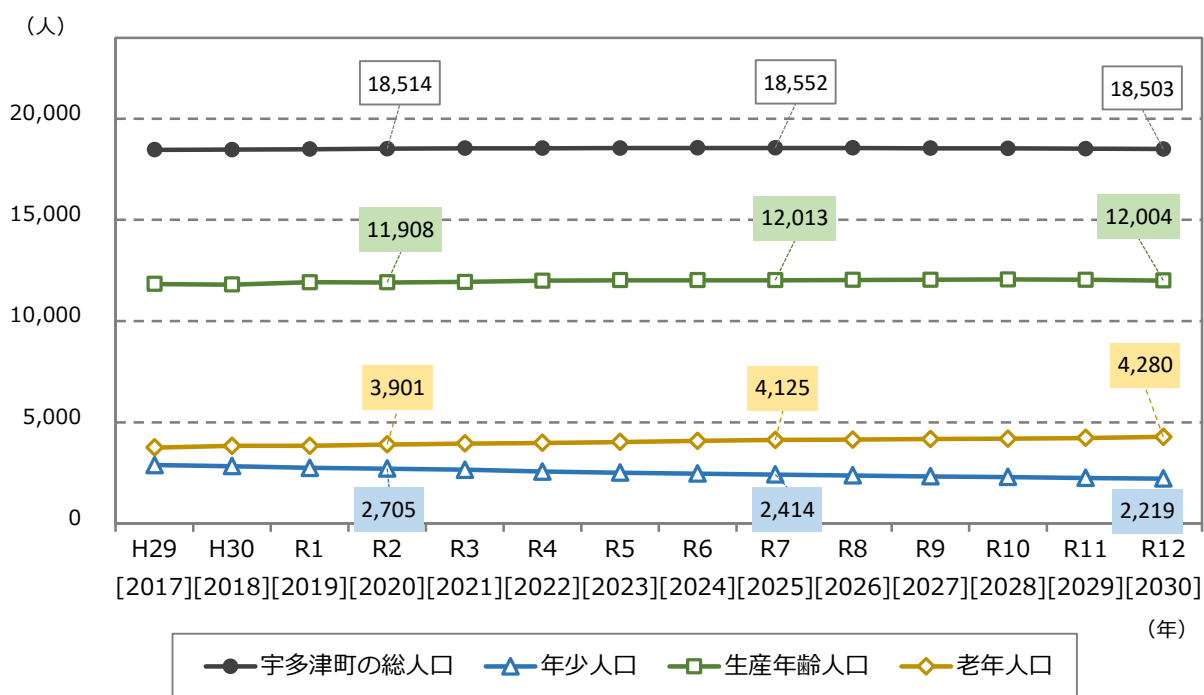
住民基本台帳（令和元（2019）年までの過去5年間／各年10月1日時点）の人口をもとに、コーホート変化率法による町の人口推計（2030年まで）を実施しました。

◆コーホート変化率法とは？

1歳以上は、特殊な人口変動がないと仮定し、その「変化率（過去5年の平均値）」を求め、それを乗ずることによって将来人口を求める。また、0歳は、出産該当年齢の女性とその年に生まれた子どもの割合（女性子ども比-過去5年の平均値）を求め、それを乗ずることによって将来の出生人口を求める。過去や将来に特殊な人口変動要因がない場合の比較的近い将来の人口推計等に使用する。

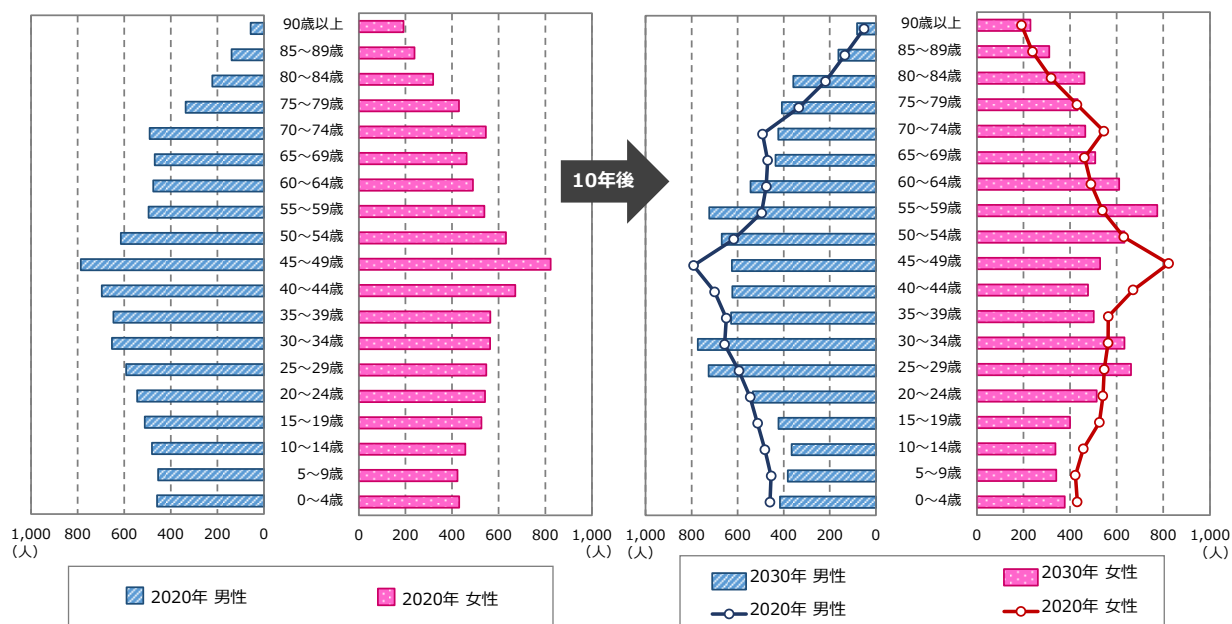
今後の総人口は横ばいで推移する予測であり、令和2（2020）年と比べて、令和12（2030）年の総人口はほとんど変わらない推計結果となりました。ただし、年齢3区分別で見ると、年少人口は減少が続き、老年人口は増加することから、少子高齢化は進行する見込みとなっています。

◆町の人口推計（独自推計）◆



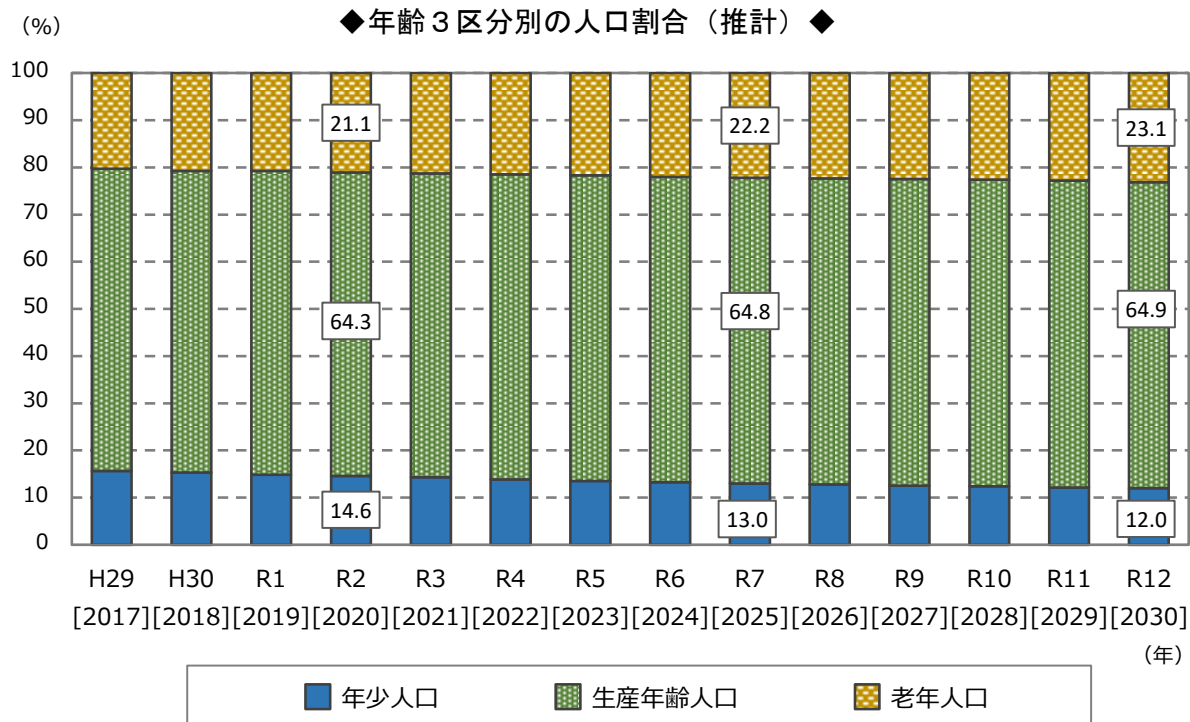
令和 2（2020）年と比べて、令和 12（2030）年の人口構成は 19 歳以下と 40 歳代で減少し、25～34 歳、55～64 歳、75 歳以上が増加する人口構成となる見込みです。

◆ 5 歳階級別人口の構成（2020 年⇒2030 年の推計） ◆



年齢 3 区分別の人口割合は、年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加する見込みとなっています。

◆ 年齢 3 区分別の人口割合（推計） ◆

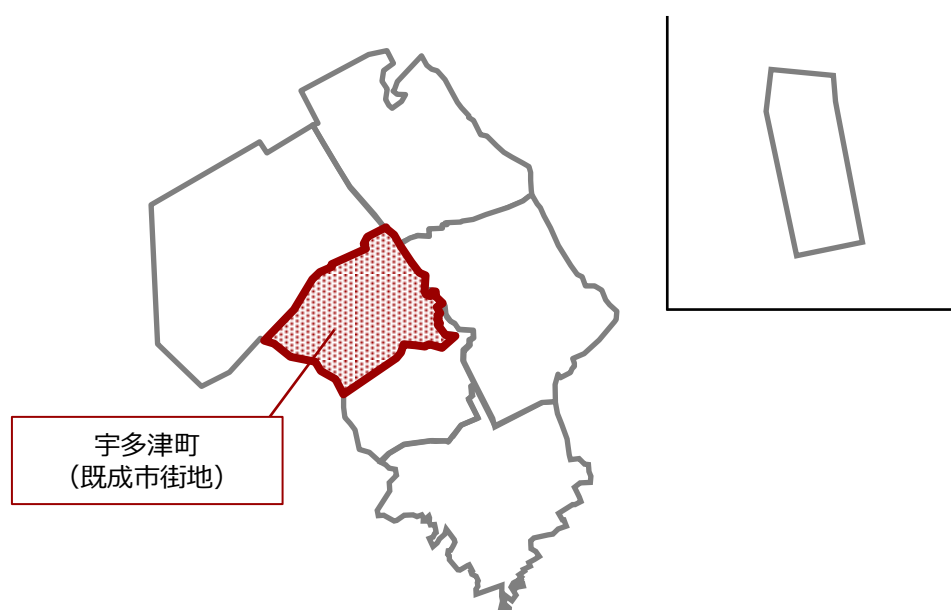
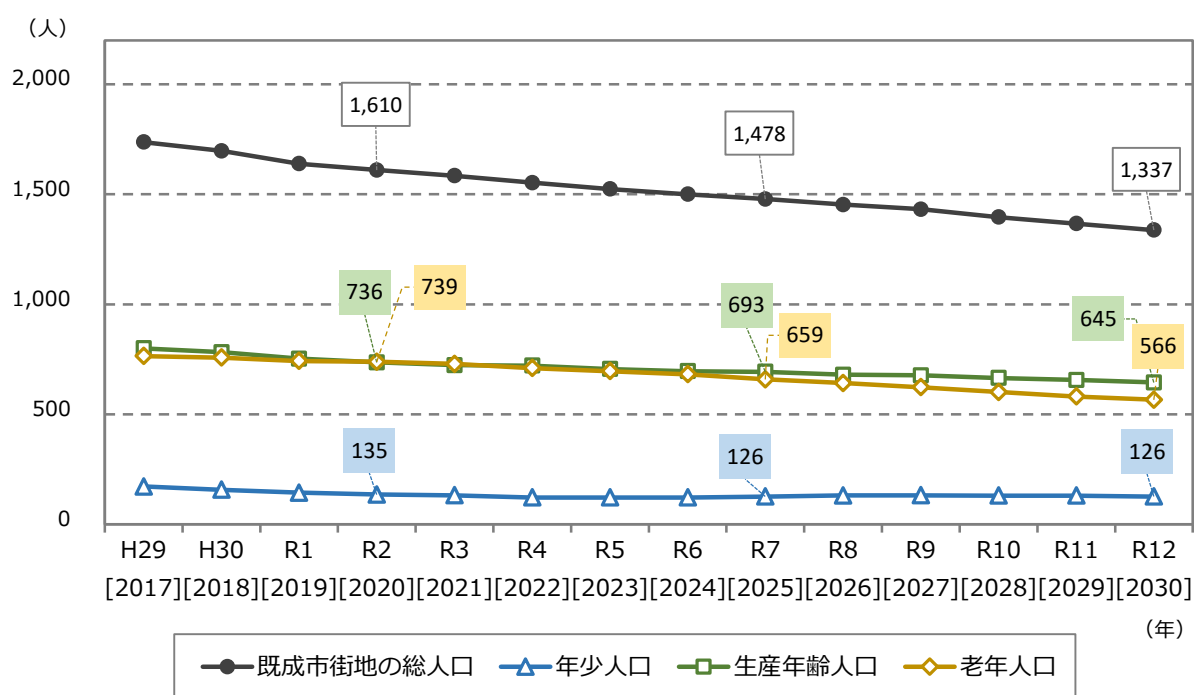


2.【参考】地区別の人口推計（独自推計）

（1）既成市街地

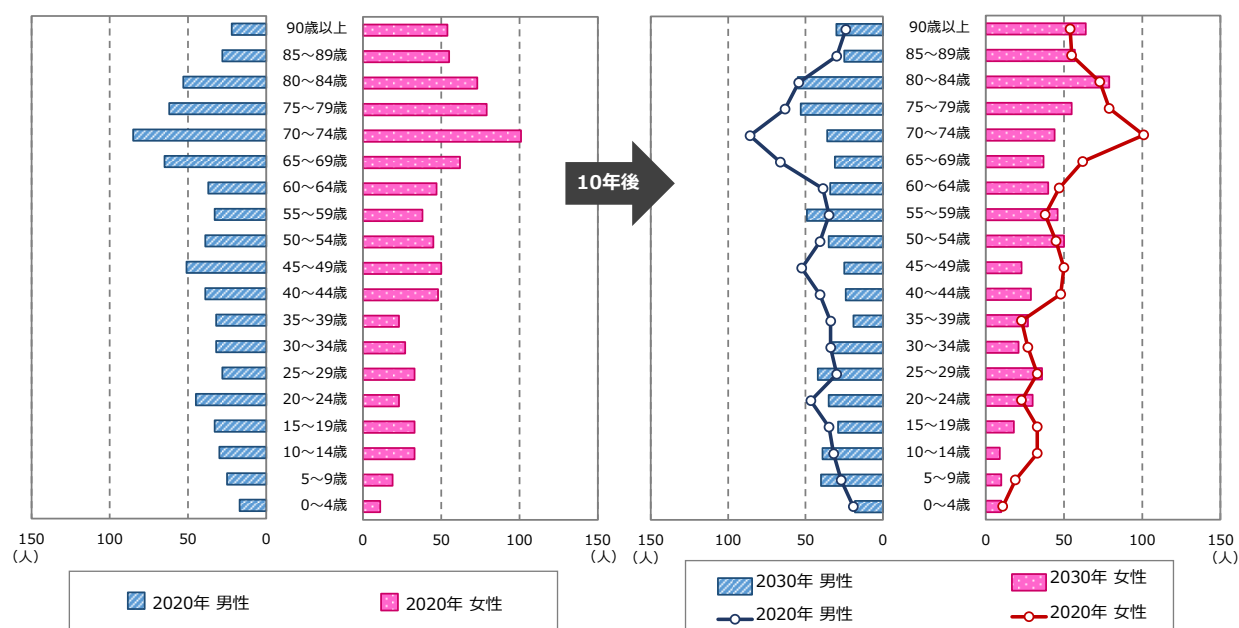
今後の総人口は減少で推移する予測であり、令和2（2020）年と比べて、令和12（2030）年の総人口は273人の減少という推計結果となりました。ただし、年齢3区分別で見ると、年少人口は横ばい、老年人口は減少する予測となっていることが特徴的です。

◆既成市街地の人口推計（独自推計）◆



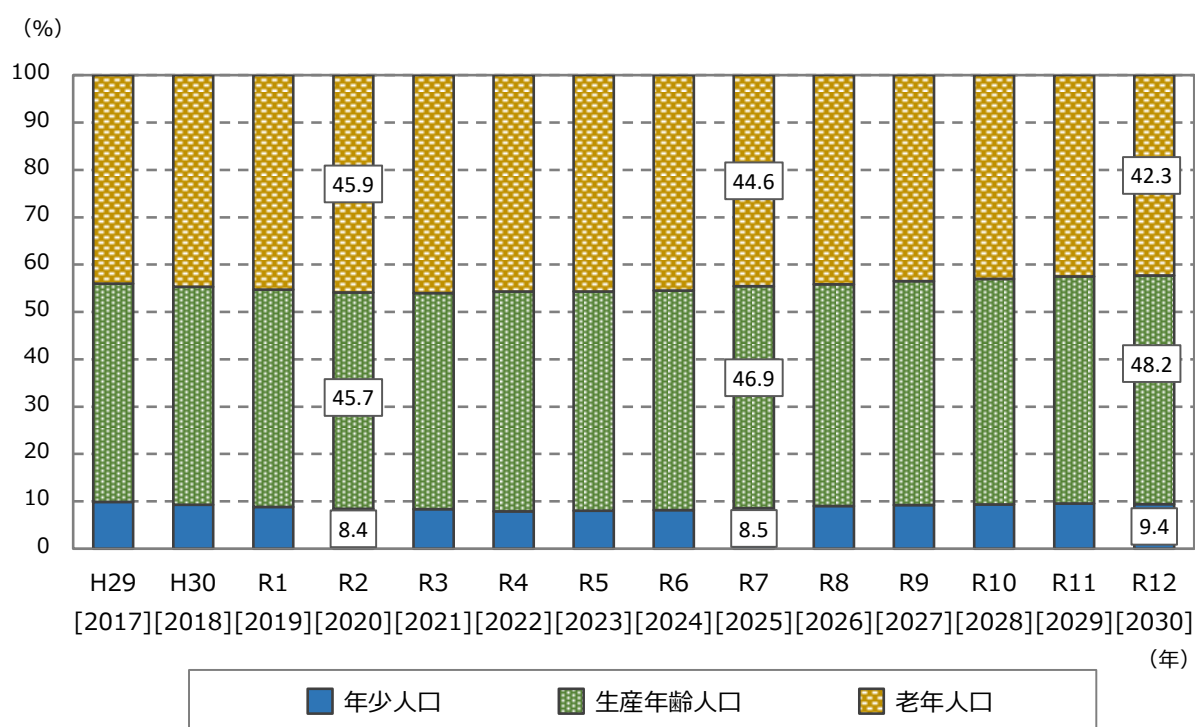
令和 2（2020）年と比べて、令和 12（2030）年の人口構成は、特に 35～49 歳と 65～79 歳が減少する人口構成となる見込みです。

◆ 5 歳階級別人口の構成（2020 年⇒2030 年の推計） ◆



年齢 3 区分別の人口割合は、老年人口の割合が減少し、年少人口と生産年齢人口の割合が増加する見込みとなっています。

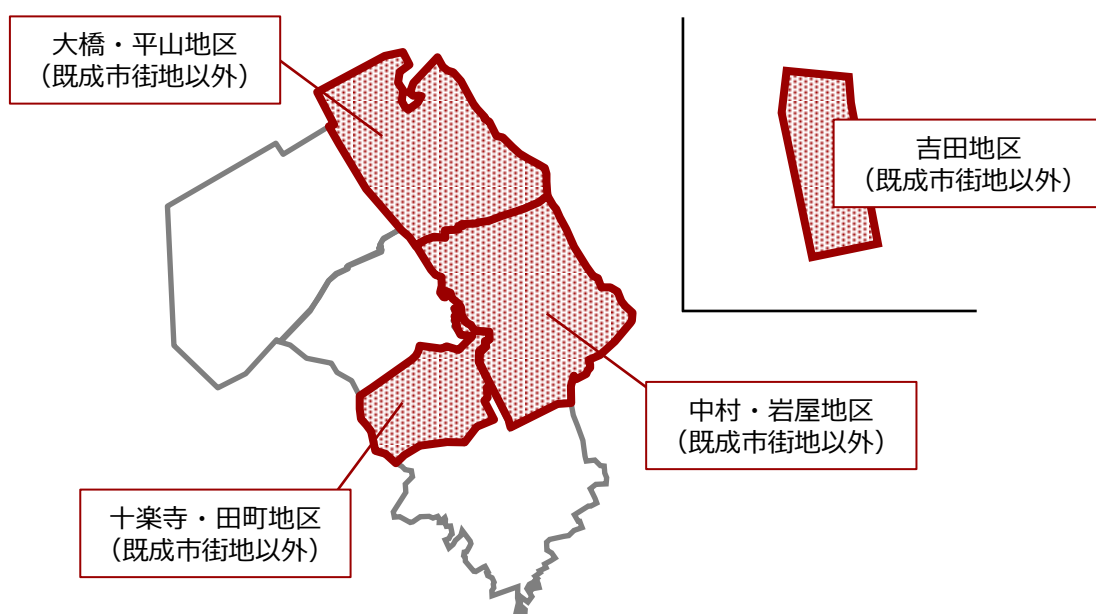
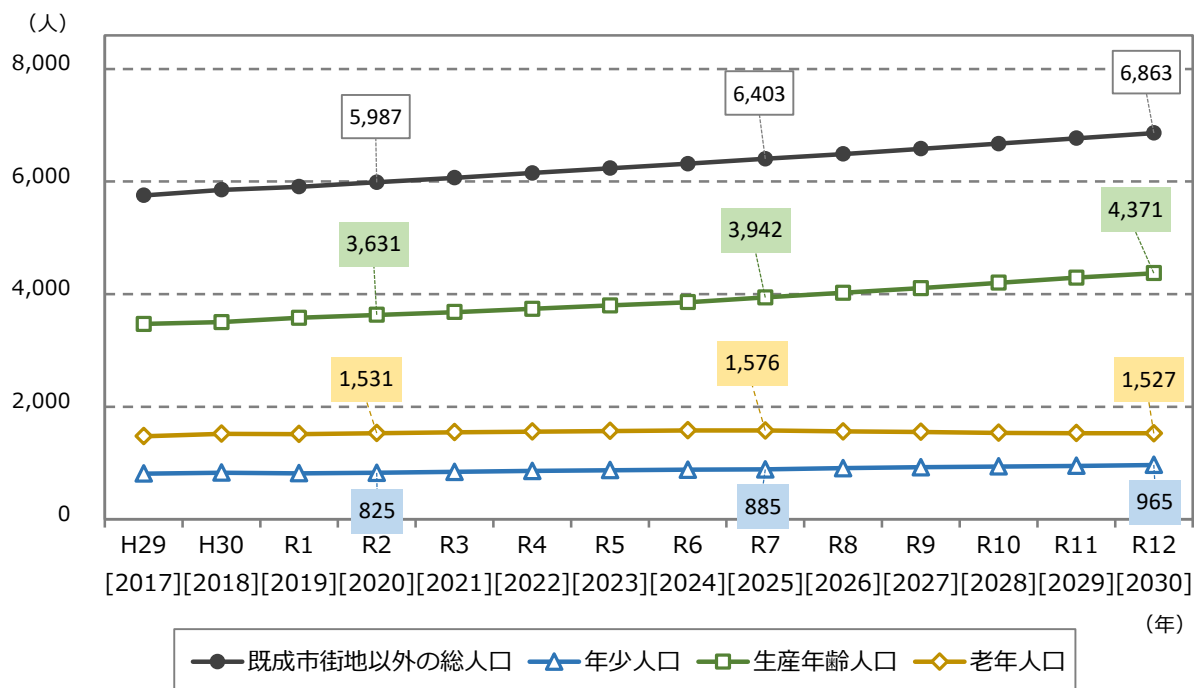
◆ 年齢 3 区分別の人口割合（推計） ◆



(2) 既成市街地以外

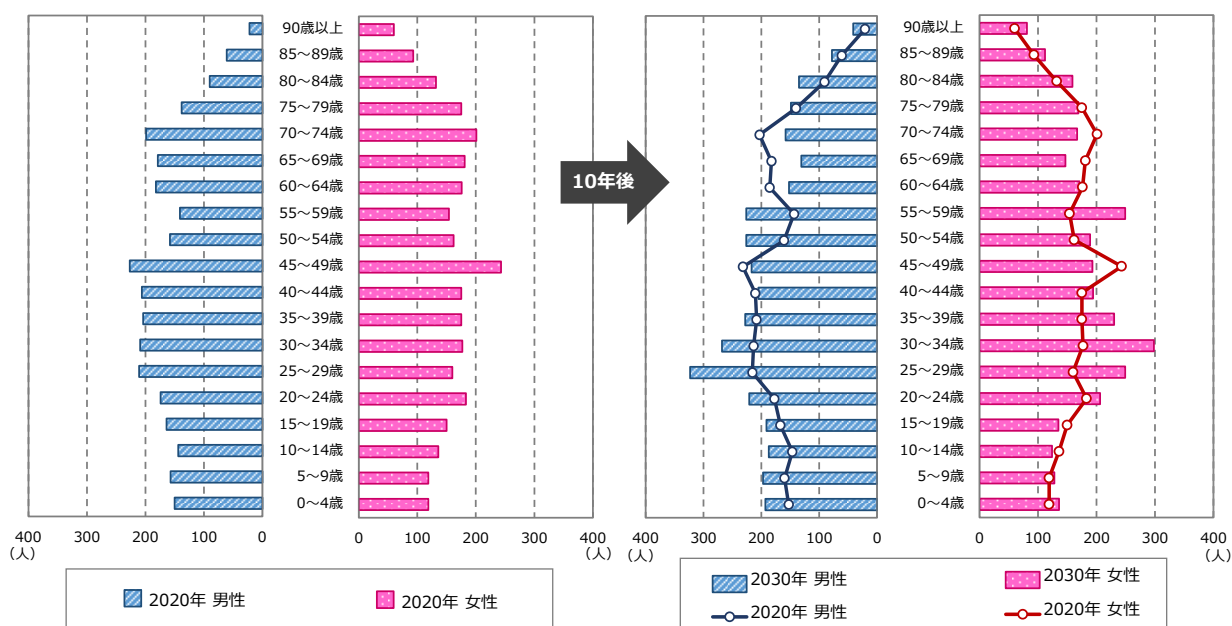
今後の総人口は増加で推移する予測であり、令和2（2020）年と比べて、令和12（2030）年の総人口は876人の増加という推計結果となりました。また、年齢3区分別で見ると、老年人口は横ばい、年少人口と生産年齢人口は増加する予測となっています。

◆既成市街地以外の人口推計（独自推計）◆



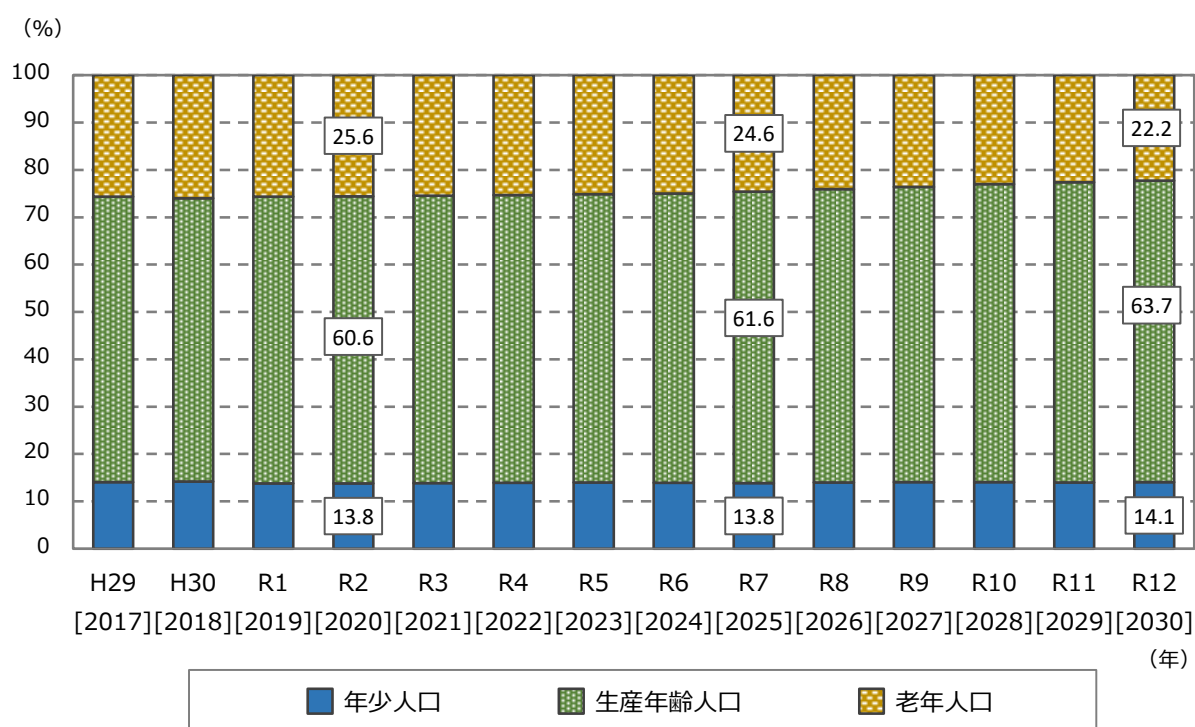
令和 2（2020）年と比べて、令和 12（2030）年の人口構成は、特に、男性の年少人口と 20～30 歳代、50 歳代が増加する人口構成となる見込みです。

◆ 5 歳階級別人口の構成（2020 年⇒2030 年の推計） ◆



年齢 3 区分別の人口割合は、老年人口の割合が減少し、年少人口と生産年齢人口の割合が増加する見込みとなっています。

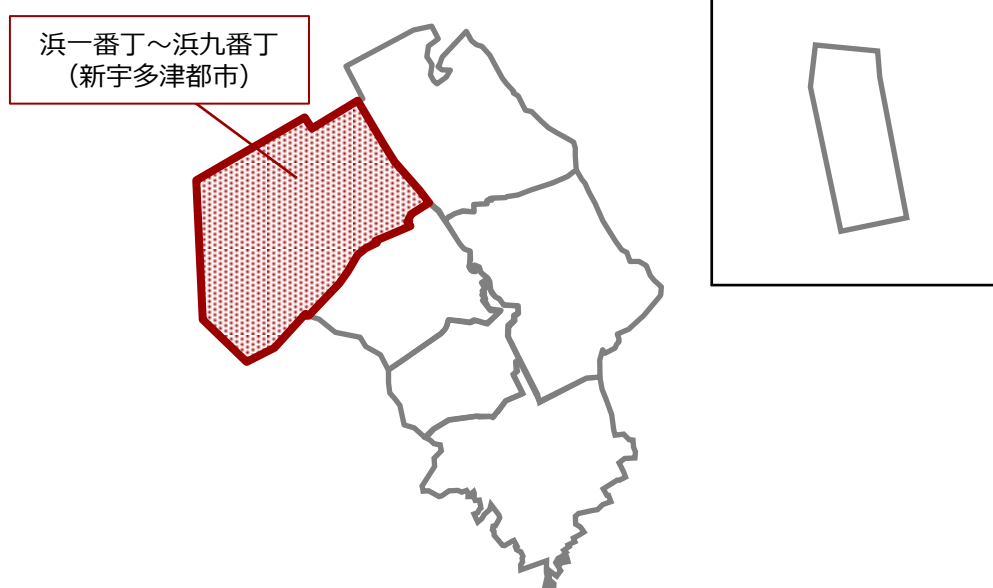
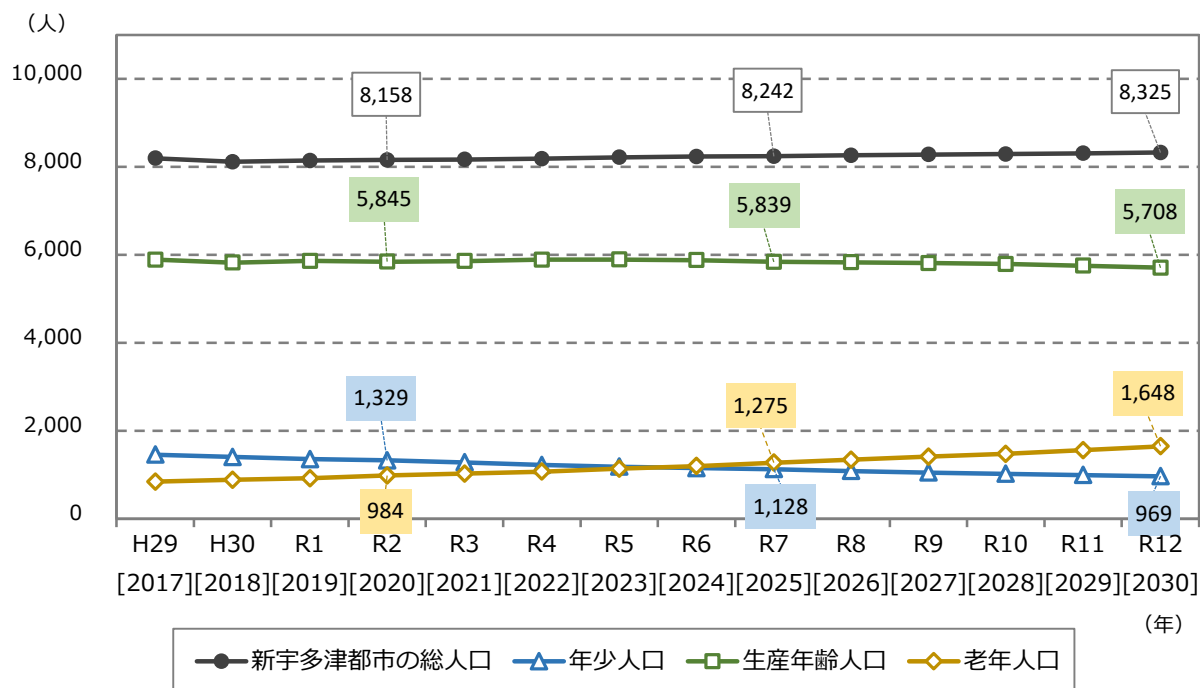
◆ 年齢 3 区分別の人口割合（推計） ◆



(3) 新宇多津都市

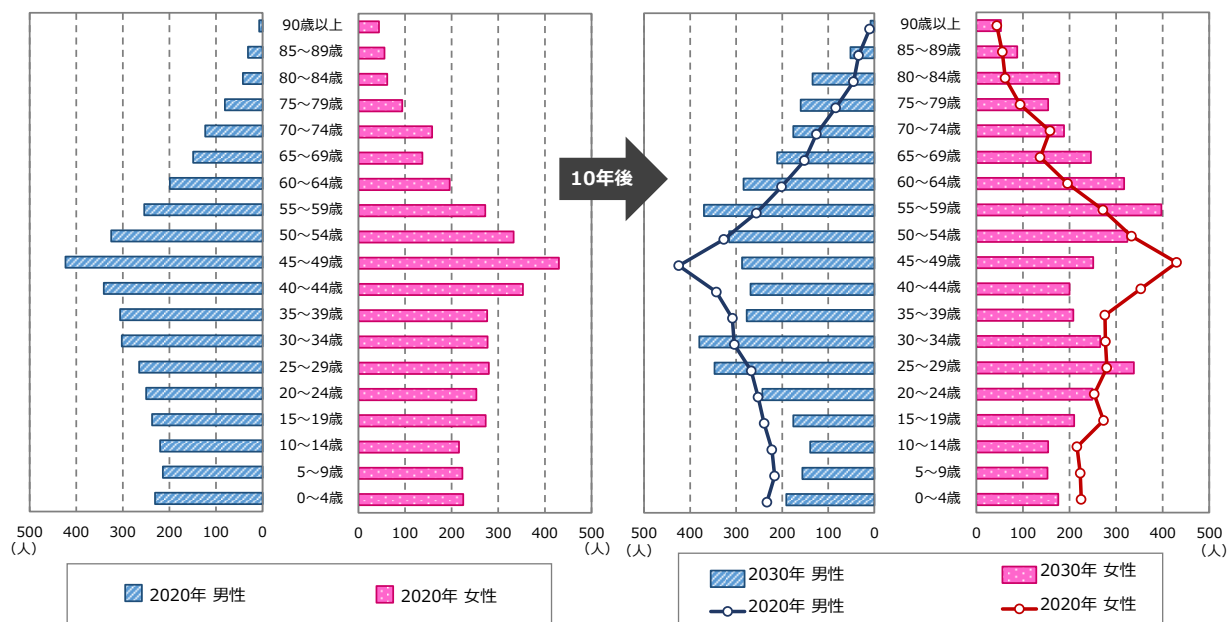
今後の総人口は増加で推移する予測であり、令和2（2020）年と比べて、令和12（2030）年の総人口は167人の増加という推計結果となりました。また、年齢3区分別で見ると、老年人口は増加、年少人口と生産年齢人口は減少する予測となっています。

◆新宇多津都市の人口推計（独自推計）◆



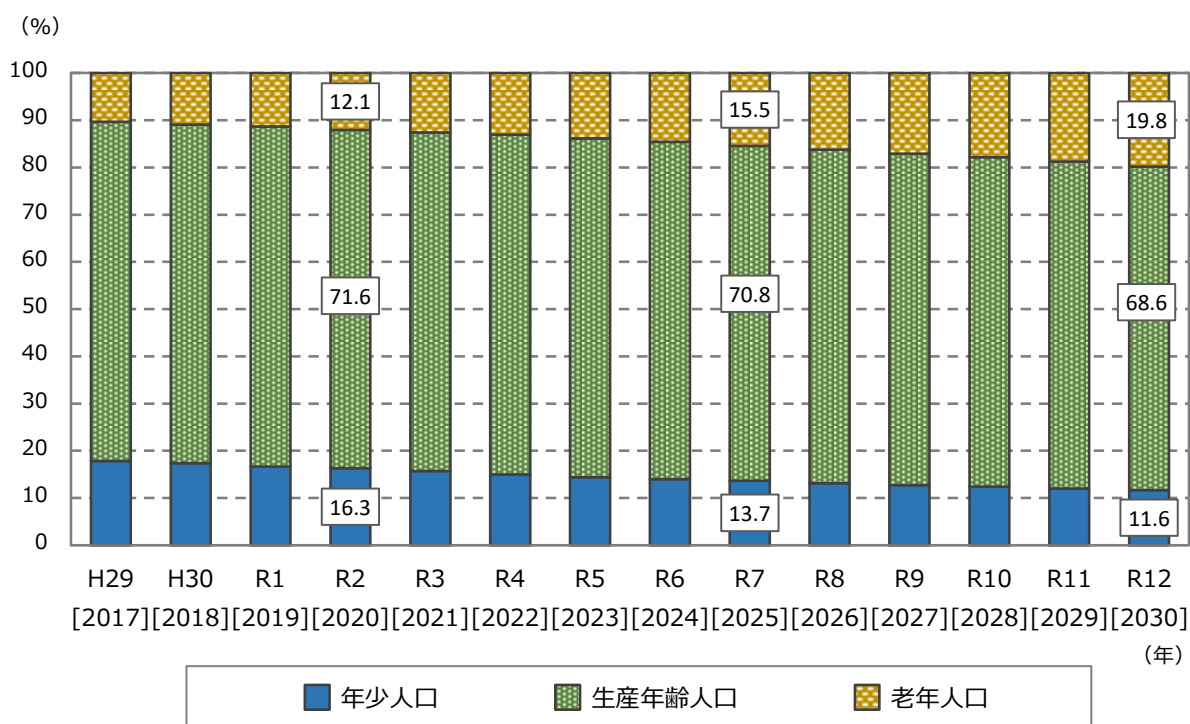
令和 2（2020）年と比べて、令和 12（2030）年の人口構成は、特に、20 歳未満と 35～49 歳が減少し、25～34 歳と 55 歳以上が増加する人口構成となる見込みです。

◆ 5 歳階級別人口の構成（2020 年⇒2030 年の推計） ◆



年齢 3 区別の人口割合は、老年人口の割合が増加し、年少人口と生産年齢人口の割合が減少する見込みとなっています。

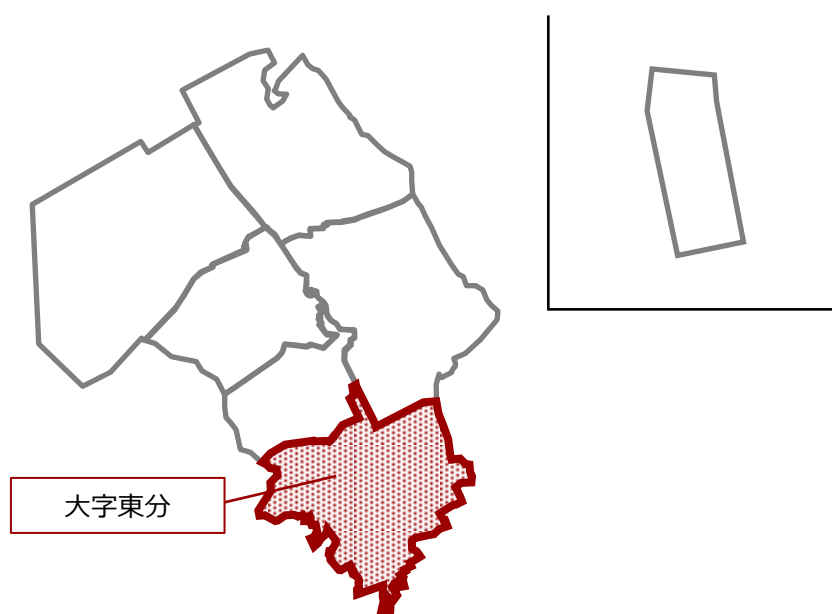
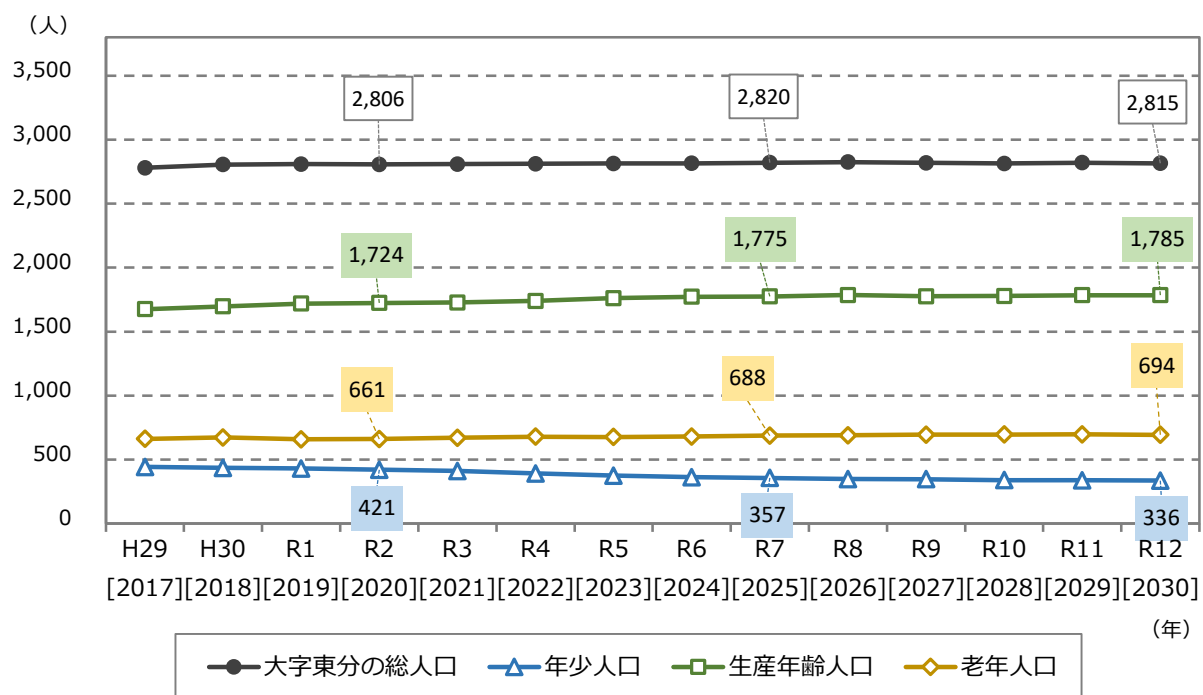
◆ 年齢 3 区別の人口割合（推計） ◆



(4) 大字東分

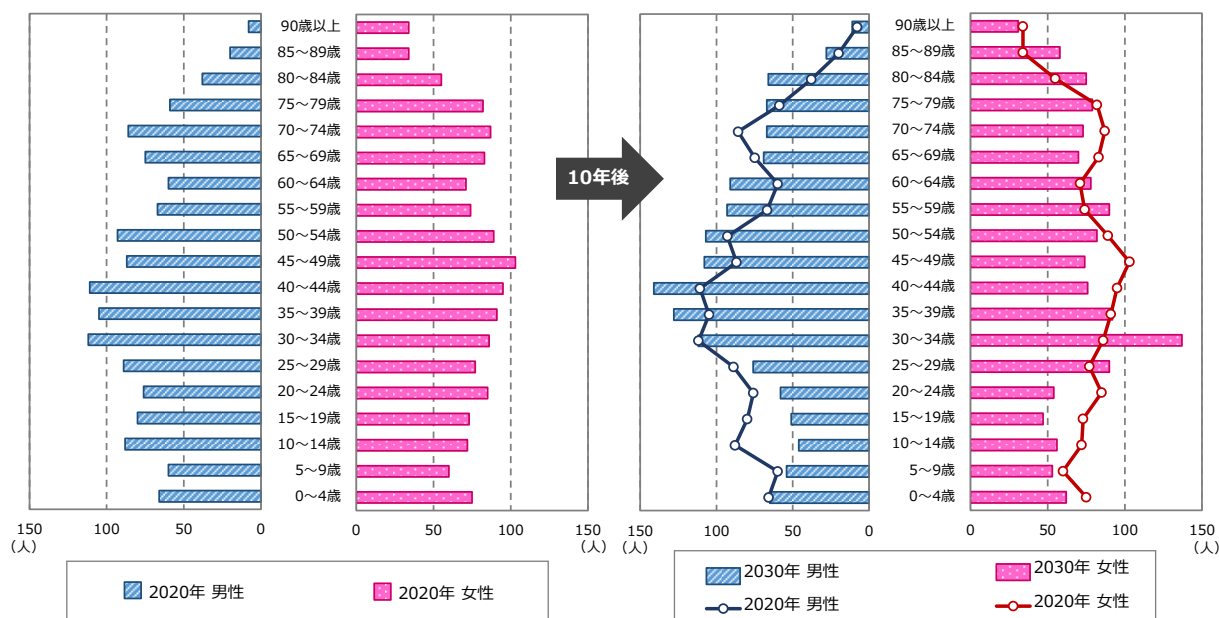
今後の総人口はほぼ横ばいで推移する予測であり、令和2(2020)年と比べて、令和12(2030)年の総人口は9人の増加という推計結果となりました。また、年齢3区分別で見ると、老年人口と生産年齢人口は増加、年少人口は減少する予測となっています。

◆大字東分の人口推計（独自推計）◆



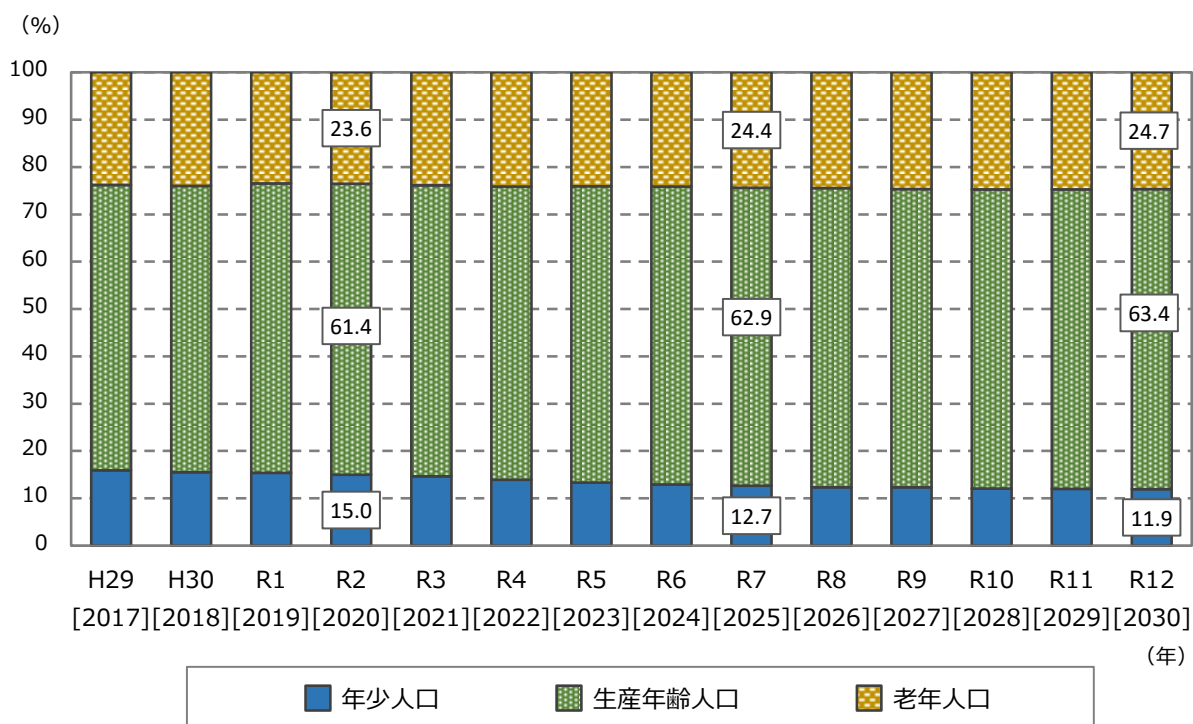
令和 2（2020）年と比べて、令和 12（2030）年の人口構成は、特に、5～24 歳と 70～74 歳が減少し、30～44 歳と 55～64 歳、80 歳以上が増加する人口構成となる見込みです。

◆ 5 歳階級別人口の構成（2020 年⇒2030 年の推計） ◆



年齢 3 区分別の人口割合は、老年人口と生産年齢人口の割合が増加し、年少人口の割合が減少する見込みとなっています。

◆ 年齢 3 区分別の人口割合（推計） ◆



宇多津町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

令和3年3月

企画・編集 宇多津町 まちづくり課